

(6) 教育課程の変更状況

① 大学院学校教育研究科

上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（平成16年規程第72号）の一部を次のように改正する。

改正案（平成31年度入学生）		現 行（平成30年度入学生）																		
<p>(趣旨) 第1条 略</p>		<p>(趣旨) 第1条 この規程は、上越教育大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第64条の規定に基づき、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）における専攻の目的、開設する授業科目及びその履修方法並びに研究指導の方法について必要な事項を定める。</p>																		
<p>(専攻の目的) 第2条 大学院の専攻において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程名</th> <th>専攻名</th> <th>目 的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士課程</td> <td>学校教育専攻</td> <td>教育における焦点化した問題の設定とその解決策を見出すための高度な教育研究を実施し、教科をはじめとする喫緊の課題の解決策を将来的視点から検討することのできる「構想力」を身に付けた多様な高度専門職業人を養成する。</td> </tr> <tr> <td>専門職学位課程</td> <td>教育実践高度化専攻</td> <td>学校現場における実践に基づき、喫緊の課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育研究を実施し、学校教育における「即応力」を身に付けた高度専門職業人を養成する。</td> </tr> </tbody> </table>		課程名	専攻名	目 的	修士課程	学校教育専攻	教育における焦点化した問題の設定とその解決策を見出すための高度な教育研究を実施し、教科をはじめとする喫緊の課題の解決策を将来的視点から検討することのできる「構想力」を身に付けた多様な高度専門職業人を養成する。	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校現場における実践に基づき、喫緊の課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育研究を実施し、学校教育における「即応力」を身に付けた高度専門職業人を養成する。	<p>(専攻の目的) 第2条 大学院の専攻において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程・専攻名</th> <th>目 的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士課程 学校教育専攻</td> <td>臨床的視点から幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等における教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。</td> </tr> <tr> <td>教科・領域教育専攻</td> <td>教科・領域教育の多様な視点から学校教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。</td> </tr> <tr> <td>専門職学位課程 教育実践高度化専攻</td> <td>教職に関わる精深な学識を授けるとともに、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を備えた高度専門職業人としての初等中等教育教員を養成することを目的とする。</td> </tr> </tbody> </table>		課程・専攻名	目 的	修士課程 学校教育専攻	臨床的視点から幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等における教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。	教科・領域教育専攻	教科・領域教育の多様な視点から学校教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。	専門職学位課程 教育実践高度化専攻	教職に関わる精深な学識を授けるとともに、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を備えた高度専門職業人としての初等中等教育教員を養成することを目的とする。
課程名	専攻名	目 的																		
修士課程	学校教育専攻	教育における焦点化した問題の設定とその解決策を見出すための高度な教育研究を実施し、教科をはじめとする喫緊の課題の解決策を将来的視点から検討することのできる「構想力」を身に付けた多様な高度専門職業人を養成する。																		
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校現場における実践に基づき、喫緊の課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育研究を実施し、学校教育における「即応力」を身に付けた高度専門職業人を養成する。																		
課程・専攻名	目 的																			
修士課程 学校教育専攻	臨床的視点から幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等における教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。																			
教科・領域教育専攻	教科・領域教育の多様な視点から学校教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。																			
専門職学位課程 教育実践高度化専攻	教職に関わる精深な学識を授けるとともに、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を備えた高度専門職業人としての初等中等教育教員を養成することを目的とする。																			
<p>(コース・領域) 第3条 学生は、<u>課程・専攻ごとに次の表に掲げるコース・領域</u>のいずれかに所属し履修するものとする。</p>		<p>(専攻・コース) 第3条 学生は、次の各号のいずれかに所属し履修するものとする。 (1) 修士課程においては、学校教育専攻（グローバル・ICT・学習研究、道徳・生徒</p>																		

課程名	専攻名	コース名	領域名
修士課程	学校教育専攻	発達支援教育コース	幼年教育領域 特別支援教育領域 学校ヘルスケア領域
		心理臨床コース	臨床心理領域
		学校教育深化コース	文理深化領域 芸能深化領域
		国際理解・日本語教育コース	国際理解・日本語教育領域
		教職キャリア支援コース	教職キャリアアップ領域
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教科教育・学級経営実践コース	教科教育実践領域 学級経営実践領域
		先端教科・領域開発研究コース	小学校英語領域 プログラミング教育領域 教科横断・教科実践開発領域 学習支援領域
		学習臨床・授業研究コース	グローバル・総合領域 ICT・情報領域 学習臨床領域
		現代教育課題研究コース	発達と教育連携領域 道徳・生徒指導領域

指導、教育連携、臨床心理学、幼年教育及び特別支援教育の各コース)及び教科・領域教育専攻(言語系教育実践、社会系教育実践、自然系教育実践、芸術系教育実践及び生活・健康系教育実践の各コース)

(2) 専門職学位課程においては、教育実践高度化専攻(教育臨床及び教育経営の各コース)

2 各課程の専攻・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

課程名	専攻名	コース名	学生数
修士課程	学校教育専攻	発達支援教育コース	約40人
		心理臨床コース	約25人
		学校教育深化コース	約35人
		国際理解・日本語教育コース	約15人
		教職キャリア支援コース	約15人
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教科教育・学級経営実践コース	約60人
		先端教科・領域開発研究コース	約40人
		学習臨床・授業研究コース	約35人
		現代教育課題研究コース	約35人
計			300人

2 前項に規定する各課程の専攻・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

課程	専攻	コース名	学生数	
修士課程	学校教育専攻	グローバル・ICT・学習研究コース	約34人	
		道徳・生徒指導コース	約12人	
		教育連携コース	約22人	
		臨床心理学コース	約18人	
		幼年教育コース	約5人	
		特別支援教育コース	約25人	
		教科・領域教育専攻	言語系教育実践コース	約25人
			社会系教育実践コース	約21人
			自然系教育実践コース	約25人
			芸術系教育実践コース	約25人
生活・健康系教育実践コース	生活・健康系教育実践コース	約28人		
	教育臨床コース	約40人		
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教育経営コース	約20人	

計

300人

(教員免許状の取得)

第4条 修士課程及び専門職学位課程の各専攻・コース・領域において取得することができる教員の免許状の種類は、別表第1に掲げるとおりとする。

2 略

(授業科目の区分)

第5条 修士課程及び専門職学位課程の授業科目の区分・内容は、次の各号の表に掲げるとおりとする。

(1) 修士課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共 通 科 目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。
専 攻 科 目	現代の教育課題と学際研究の進展に対応した高度な専門性を形成するために、各専門領域に関わる専門科目及び学校教育に関する広範な専門分野における方法論と教育実践学へのアプローチに関する方法論について開設する。 また、各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。
実 習 科 目	他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場や企業等における実践を通して身に付けるために開設する。

(2) 専門職学位課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共 通 科 目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。
コース別選択科目	深い学識と教養をもとにして学校現場における実践を意味づけ、的確に判断する力量を身に付けるために開設する。
実 習 科 目	教育現場の状況を的確に把握し、他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場における実践を通して身に付けるために開設する。

(3) 修士課程及び専門職学位課程共通の授業科目

授業科目の区分	内 容
自 由 科 目	教育に関連の深い諸問題、教育の背景・基礎となる諸問題について新しい動向も考慮し開設する。

(教員免許状の取得)

第4条 修士課程及び専門職学位課程の各専攻・コースにおいて取得することができる教員の免許状の種類は、別表第1に掲げるとおりとする。

2 前項の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第5条 修士課程及び専門職学位課程の授業科目の区分・内容は、次の各号の表に掲げるとおりとする。

(1) 修士課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共 通 科 目	学校場面に生起する諸問題に取り組み、学び合いの中から問題解決が可能となる実践力を育成するために開設する。
専 攻 科 目	1 現代の教育課題と学際研究の進展に対応した高度な専門性を形成するために、各専門領域に関わる専門科目及び学校教育に関する広範な専門分野における方法論と教育実践学へのアプローチに関する方法論について開設する。 2 各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。

(2) 専門職学位課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
臨 床 共 通 科 目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。
コース別選択科目	深い学識と教養をもとにして学校現場における実践を意味づけ、的確に判断する力量を身に付けるために開設する。
実 習 科 目	教育現場の状況を的確に把握し、他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場における実践を通して身に付けるために開設する。

(3) 修士課程及び専門職学位課程共通の授業科目

授業科目の区分	内 容
自 由 科 目	教育に関連の深い諸問題、教育の背景・基礎となる諸問題について新しい動向も考慮し開設する。

<p>(履修単位の区分) 第6条 略</p>	<p>(履修単位の区分) 第6条 修士課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の30単位以上を修得しなければならない。 2 専門職学位課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の46単位以上を修得しなければならない。 3 前条第3号の表に掲げる修士課程及び専門職学位課程共通の自由科目の単位は、修了要件に算入しないものとする。</p>
<p>(授業科目名、単位数、必修・選択等の区分等) 第7条 略</p>	<p>(授業科目名、単位数、必修・選択等の区分等) 第7条 第5条各号の表に掲げる授業科目の区分に属する授業科目名及び単位数、必修・選択等については、別表第3に掲げるとおりとする。</p>
<p>(長期履修学生及び教育職員免許取得プログラム) 第8条 略</p>	<p>(長期履修学生及び教育職員免許取得プログラム) 第8条 学則第59条第1項ただし書に規定する職業を有している等の事情により3年間にわたり計画的に教育課程を履修する者(以下「長期履修学生」という。)のうち、教育職員免許状の取得の所要資格を得させることを目的としたプログラム(以下「教育職員免許取得プログラム」という。)の受講を許可された者は、学校教育学部において開設する授業科目のうち、別に定める教育職員免許状の所要資格を得るための授業科目を履修することができる。 2 前項の規定により授業科目を履修し、当該授業科目の試験に合格した者に、所定の単位を与えるものとする。ただし、修得した単位は、学則第72条第1項及び第2項に規定する修了要件の単位数に含めることができない。 3 長期履修学生及び教育職員免許取得プログラムについて必要な事項は、別に定める。</p>
<p>(教職大学院1年制プログラム) 第9条 略</p>	<p>(教職大学院1年制プログラム) 第9条 学則第59条第2項に規定する履修上の区分を教職大学院1年制プログラムという。 2 教職大学院1年制プログラムは、学則第72条第3項の規定に基づき、実習科目10単位のうち6単位について修得しているものとみなし、当該授業科目の履修を免除された者を対象とする。 3 教職大学院1年制プログラムについて必要な事項は、別に定める。</p>
<p>(指導教員) 第10条 略</p>	<p>(指導教員) 第10条 学生には、研究指導又は修学指導を担当する指導教員を定めるものとする。 2 指導教員について必要な事項は、別に定める。</p>
<p>(研究計画及び研究題目) 第11条 略</p>	<p>(研究計画及び研究題目) 第11条 修士課程の学生は、入学後速やかに指導教員の指導を受けて、別に定めるところに従い研究計画を立てるとともに、その研究題目を決定しなければならない。</p>

(授業計画及び履修登録)

第12条 略

(授業計画及び履修登録)

- 第12条** 学生は、当該年度内に履修しようとする授業科目について、別に定めるところに従い授業計画を立て、履修登録を行わなければならない。
- 2 学生は、科目等履修生として履修する場合を除き、所属する課程とは異なる課程の授業科目の履修登録を行うことはできない。

(履修登録の上限)

第13条 略

(履修登録の上限)

- 第13条** 専門職学位課程の学生が1年間に履修登録できる単位数の上限は、36単位とする。ただし、教職大学院1年制プログラムを履修する学生にあってはこの限りでない。
- 2 履修登録の上限に関し必要な事項は、別に定める。

(試験)

第14条 略

(試験)

- 第14条** 試験は、定期試験及び臨時試験（小テストを含む。以下同じ。）とする。
- 2 定期試験は、各授業科目の受講を終了した者について、学年末又は学期末に行うものとする。ただし、出席時数が単位修得に必要な授業時数の3分の2に達しない者は、原則として受験資格を失うものとする。
- 3 定期試験を実施する科目について当該試験を受けない場合は、単位は与えないものとする。
- 4 臨時試験は、授業担当教員が必要と認めるときは、随時行うことができる。

(追試験)

第15条 略

(追試験)

- 第15条** 病気その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者は、授業担当教員への願い出によって追試験を受けることができる。
- 2 前項の病気その他やむを得ない理由とは、次の各号に掲げるものをいう。
- (1) 負傷又は疾病
 - (2) 進学、就職試験等進路に関わるもの
 - (3) 父母、兄弟姉妹及び祖父母に関わる忌引き
 - (4) その他前3号と同等と認められる事由

(成績の評価)

第16条 授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、当該評語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ～ 90点	合格（シラバスに記載された到達目標等を上回る水準に達している。）
A	89点 ～ 80点	合格（シラバスに記載された到達目標等を十分に達成している。）
B	79点 ～ 70点	合格（シラバスに記載された到達目標等を概ね達成している。）
C	69点 ～ 60点	合格（シラバスに記載された到達目標等の最低

(成績の評価)

第16条 授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、当該評語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ～ 90点	合格（特に優秀な成績）
A	89点 ～ 80点	合格（優れた成績）
B	79点 ～ 70点	合格（標準的な成績）
C	69点 ～ 60点	合格（合格として認められる成績）

<table border="1"> <tr> <td>D</td> <td>59点 以下</td> <td>限度の水準に達している。） 不合格とし、単位を与えない。（シラバスに記載された到達目標等に達していない。）</td> </tr> </table>	D	59点 以下	限度の水準に達している。） 不合格とし、単位を与えない。（シラバスに記載された到達目標等に達していない。）		<table border="1"> <tr> <td>D</td> <td>59点 以下</td> <td>不合格とし、単位を与えない。</td> </tr> </table>	D	59点 以下	不合格とし、単位を与えない。	
D	59点 以下	限度の水準に達している。） 不合格とし、単位を与えない。（シラバスに記載された到達目標等に達していない。）							
D	59点 以下	不合格とし、単位を与えない。							
<p>2 次条第3項に規定する成績の評価方法等で示した要件を満たさない場合は、当該授業科目について評価対象外とする。</p> <p>3 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。</p>	<p>(新設)</p> <p>2 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。</p>								
<p>(成績の評価方法等)</p> <p>第17条 略</p>	<p>(成績の評価方法等)</p> <p>第17条 成績の評価は、各授業科目の教育目標に対する学生の到達度を見るため、講義、演習、実験、実習及び実技等の授業形態に応じた適切な評価方法及び評価基準に基づき行うものとする。</p> <p>2 成績の評価は、学期の途中においても適宜行うものとし、その結果を学生に明示することにより、教育目標への到達度を高められるよう配慮しなければならない。</p> <p>3 成績の評価方法は、定期試験、臨時試験、課題レポート、発表、討論、提出作品、授業への参加態度、予習・復習等の自主的学修態度その他多様な要素を可能な限り組み合わせて行うものとする。</p> <p>4 クラス又はグループ指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない。</p>								
<p>(不正行為)</p> <p>第18条 略</p>	<p>(不正行為)</p> <p>第18条 試験の際に学生が不正行為を行った場合は、当該授業科目の受験は無効とし、その状況によっては当該学期の授業科目の受験全部が無効とすることがある。</p>								
<p>(学位論文の提出及び審査等)</p> <p>第19条 略</p>	<p>(学位論文の提出及び審査等)</p> <p>第19条 修士課程における学位論文又は特定の課題についての研究の成果の提出、審査及び試験については、上越教育大学学位規則（平成16年規則第17号）の定めるところによる。</p>								
<p>(修学指導)</p> <p>第20条 指導教員は、学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに、関係教職員と連携を図り、適切な修学指導を行うものとする。</p> <p>2 指導教員が行う主な修学指導は、次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に、未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）</p> <p>(2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言</p> <p>(3) 病欠欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言</p> <p>(4) 授業料等の納付に係る指導・助言</p> <p>(5) 学生の休学、復学、転学、留学、退学及び<u>転コース・領域</u>の願い出に対する適切な指導・助言</p>	<p>(修学指導)</p> <p>第20条 指導教員は、学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに、関係教職員と連携を図り、適切な修学指導を行うものとする。</p> <p>2 指導教員が行う主な修学指導は、次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に、未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）</p> <p>(2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言</p> <p>(3) 病欠欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言</p> <p>(4) 授業料等の納付に係る指導・助言</p> <p>(5) 学生の休学、復学、転学、留学、退学及び<u>転専攻・コース等</u>の願い出に対する適切な指導・助言</p>								

3 指導教員が交代するときは、修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

(オフィス・アワーの実施)

第21条 略

3 指導教員が交代するときは、修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

(オフィス・アワーの実施)

第21条 授業担当教員は、修学上の問題解決に役立てるため、あらかじめ各研究室等において学生からの履修相談や授業に関する質問等に応ずる時間帯（以下「オフィス・アワー」という。）を設定し、シラバス及び履修の手引等に公開することにより学生に的確に周知しなければならない。

2 オフィス・アワーの実施方法は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 授業担当教員は、毎週一定日において1時間以上のオフィス・アワーを設定すること。ただし、やむを得ない事情がある場合は、この限りでない。
- (2) オフィス・アワーの利用は、授業担当教員に対し学生からの事前連絡を要件とするものではないこと。ただし、オフィス・アワーの利用を希望する学生は、その時間の有効活用のため、授業担当教員に対し事前に相談等の内容を連絡するよう努めるものとする。
- (3) 非常勤講師等で研究室を有しない場合は、電子メール等により相談に対応すること。
- (4) 授業担当教員は、オフィス・アワーの実施状況及び実施方法を自ら点検し、必要に応じて改善に努めること。

(成績の通知)

第22条 略

(成績の通知)

第22条 学生の成績の通知を希望する父母等又は保証人がある場合は、学生の同意を得た上で通知するものとする。

2 成績の通知の時期は、各年度末とし、当該年度までに履修した授業科目の成績を掲載するものとする。ただし、次年度の在籍予定者に限るものとする。

(細則)

第23条 略

(細則)

第23条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、学長が定める。

別表第1 (第4条関係)

専攻・コース・領域名			教員の免許状の種類(免許教科)	
修士課程	学校教育専攻	発達支援教育コース	幼年教育領域	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状
			特別支援教育領域	特別支援学校教諭専修免許状(視覚障害者に関する教育の領域, 聴覚障害者に関する教育の領域, 知的障害者に関する教育の領域, 肢体不自由者に関する教育の領域, 病弱者に関する教育の領域) 特別支援学校教諭一種免許状(視覚障害者に関する教育の領域, 聴覚障害者に関する教育の領域, 知的障害者に

別表第1 (第4条関係)

専攻・コース名			教員の免許状の種類(免許教科)	
修士課程	学校教育専攻	グローバル・ICT・学習研究コース 道徳・生徒指導コース 教育連携コース 臨床心理学コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教)
			高等学校教諭専修免許状(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 水産, 福祉, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ	

		<p>関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域，病弱者に関する教育の領域)</p>
	学校ヘルスケア領域	<p>中学校教諭専修免許状（保健） 高等学校教諭専修免許状（保健） 養護教諭専修免許状 栄養教諭専修免許状</p>
心理臨床コース		
学校教育深化コース	文理深化領域（国語）	<p>幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）</p>
	文理深化領域（英語）	<p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）</p>
	文理深化領域（社会）	<p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）</p>
	文理深化領域（数学）	<p>幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学）</p>
	文理深化領域（理科）	<p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）</p>
	文理深化領域（技術）	<p>中学校教諭専修免許状（技術） 高等学校教諭専修免許状（工業）</p>
	文理深化領域（家庭）	<p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（家庭）</p>
	芸能深化領域（音楽）	<p>幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（音楽） 高等学校教諭専修免許状（音楽）</p>
	芸能深化領域（美術）	<p>幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（美術） 高等学校教諭専修免許状（美術，工芸）</p>

				語，フランス語，宗教)
		幼年教育コース		幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状
		特別支援教育コース		特別支援学校教諭専修免許状 特別支援学校教諭一種免許状
教科・領域教育専攻	言語系教育実践コース	国語		幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）
			英語	中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）
	社会系教育実践コース			小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）
	自然系教育実践コース	数学		幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学）
理科			小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）	
修士課程	教科・領域教育専攻	芸術系教育実践コース	音楽	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（音楽） 高等学校教諭専修免許状（音楽）
			美術	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（美術） 高等学校教諭専修免許状（美術，工芸）
	生活・健康系教育実践コース	保健体育		幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
			技術	中学校教諭専修免許状（技術） 高等学校教諭専修免許状（工業）
		家庭		小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（家庭）

		芸能深化領域（保健体育）	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
		国際理解・日本語教育コース	
		教職キャリア支援コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教科教育・学級経営実践コース 先端教科・領域開発研究コース 学習臨床・授業研究コース 現代教育課題研究コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）

			高等学校教諭専修免許状（家庭）
		学校ヘルスケア	中学校教諭専修免許状（保健） 高等学校教諭専修免許状（保健） 養護教諭専修免許状 栄養教諭専修免許状
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教育臨床コース 教育経営コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）

別表第2（第6条関係）

履修基準単位表

(1) 修士課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目 教科等の指導内容，指導方法に関する科目 発達支援，教育相談に関する科目	6	全コース・領域共通とし，2つの授業科目の領域以上にわたり計6単位以上を修得するもの

別表第2（第6条関係）

履修基準単位表

(1) 修士課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
共通	子どもの学びとこころのケアに関する科目 教育と社会問題に関する科目		全専攻・コース共通とし，4単位以上を修得するものとする。

	学校教育と教員としての役割に関する科目 その他の領域に関する科目		とする。
	実践場面分析演習	2	修了時において所属するコース・領域に開設される授業科目2単位を修得するものとする。
専攻科目	課題研究プロジェクト科目 課題研究スタディーズ 専門科目 発達支援教育に関する科目 心理臨床に関する科目 学校教育深化に関する科目 国際理解・日本語教育に関する科目 教職キャリア支援に関する科目	10	課題研究プロジェクト科目2単位を含み、計10単位以上（心理臨床に関する科目の一部は、心理臨床コースの学生に限る。）を修得するものとする。
	専門セミナー	8	修了時において所属するコース・領域に開設される授業科目のうちから、2科目8単位を修得するものとする。
実習科目	課題研究フィールドワーク	4	全コース・領域共通（心理臨床コースの学生は、当該コースの科目に限る。）とし、4単位を修得するものとする。
	計	30	

(2) 専門職学位課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目 教科等の実践的な指導方法に関する科目 生徒指導及び教育相談に関する科目 学級経営及び学校経営に関する科目 学校教育と教員の在り方に関する科目	18	全授業科目の領域にわたり18単位以上を修得するものとする。 ただし、教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）の履修を許可された者については、学級経営及び学校経営に関する科目4単位を含み、全科目領域にわたり12単位以上を修得するものとする。
コー	学校支援 学校支援リフレクション	18	学校支援リフレクション」及

科目	教材開発と評価に関する科目 海外教育研究に関する科目 教職実践インターンシップに関する科目	4	
	実践場面分析演習	2	修了時において所属する専攻・コース又は専攻する科目群に開設される授業科目2単位を修得するものとする。
専攻科目	専門科目 グローバル・ICT・学習研究に関する科目 道徳・生徒指導に関する科目 教育連携に関する科目 臨床心理学に関する科目 幼年教育に関する科目 特別支援教育に関する科目 言語系教育実践に関する科目 社会系教育実践に関する科目 自然系教育実践に関する科目 芸術系教育実践に関する科目 生活・健康系教育実践に関する科目	16	全専攻・コース共通（臨床心理学に関する科目の一部は、所属する専攻・コースに限る。）とし、16単位以上を修得するものとする。
	専門セミナー	8	修了時において所属する専攻・コース又は専攻する科目群に開設される授業科目のうちから、2科目8単位以上を修得するものとする。
	計	30	

(2) 専門職学位課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
臨床共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目 教科等の実践的な指導方法に関する科目 生徒指導及び教育相談に関する科目 学級経営及び学校経営に関する科目 学校教育と教員の在り方に関する科目	20	全コース共通とし、必修科目5科目20単位を修得するものとする。
コース別選択科目	学校支援プロジェクト科目 学校支援リフレクション 学校支援プレゼンテーション プロフェッショナル科目	16	所属するコースに開設される「学校支援リフレクション2科目8単位」と「学校支援プレゼンテーション2科目2単位」を含み、計16単位以上を

ス別 選択 科目	プロジェ クト科目	学校支援プレゼンテーション	び「学校支援プレゼンテーショ ン」は、それぞれ2科目8単位 及び2科目2単位の修得を標準 とするが、コース・領域により、 それぞれ2科目4単位以上及び 2科目2単位以上とすることも 可能とし、これらの単位を含み、 所属するコース・領域に開設さ れるプロフェッショナル科目と 合わせて18単位以上を修得する ものとする。 ただし、教育経営プロフェッ ショナル育成プログラム（1年 制）の履修を許可された者につ いては、「学校支援リフレクシ ョン2科目4単位」及び「学校 支援プレゼンテーション2科目 4単位」を含み、24単位以上を 修得するものとする。
	プロフェッショナル科目 教科教育・学級経営実践に関する科目 先端教科・領域開発研究に関する科目 学習臨床・授業研究に関する科目 現代教育課題研究に関する科目		
実習 科目	学校支援フィールドワーク		10 全コース・領域共通とし、2 科目10単位を修得するものとす る。 ただし、カリキュラム・マネ ジメント・プロフェッショナル 育成プログラム（1年制）又は 教育経営プロフェッショナル育 成プログラム（1年制）いずれ かの1年制プログラムの履修を 許可された者については、実習 科目10単位のうち、6単位を履 修したものとみなす。
計		46	

実習科目	学校支援フィールドワーク	10	修得するものとする。 全コース共通とし、2 科目10単位を修得するも のとする。 ただし、教育経営コー スにおいて、1年制プロ グラムの履修を許可され た者については、実習科 目10単位のうち、6単位 を履修したものとみな す。
計		46	

別表第3（第7条関係）

1 修士課程
(1) 共通科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
教育課程	全コース	カリキュラム開発・デザインA		L 2

別表第3（第7条関係）

1 修士課程
(1) 共通科目

領 域	対象とする 専攻・コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
子どもの	全専攻・コー	学校臨床心理実践法		L 2

の編成及び実施に関する科目		カリキュラム開発・デザインB		L 2	学びとこころのケアに関する科目		特別な教育的ニーズのある子の支援		L 2	
教科等の指導内容、指導方法に関する科目		教育方法の理論と実践A 教育方法の理論と実践B 教育方法の理論と実践C 教科教育の理論と実際 心の健康教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）		L 2 L 2 L1・S1 L 2 L 2	教育と社会問題に関する科目		教育と人権特論 現代社会と教育連携 いのち教育論 教育課程行政特論		L 2 L 2 L1・S1 L 2	
発達支援、教育相談に関する科目		特別支援教育の理論と実践 学校臨床心理実践法		L 2 L 2	教材開発と評価に関する科目		人間科学と教材開発 自然科学と教材開発 意味生成表現と教材開発		L 2 L 2 L1・S1	
学校教育と教員としての役割に関する科目		学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） 学校教育と共生社会		L 2 L 2	海外教育に関する科目		海外教育特別研究A 海外教育特別研究B 海外教育特別研究C 海外教育特別研究D 海外教育特別研究E 海外フィールド・スタディ		P 2 P 2 P 2 P 2 P 2 P 4	
その他の領域に関する科目		教育課程行政特論 海外教育特別研究A 海外教育特別研究B 海外教育特別研究C 海外教育特別研究D 海外フィールドスタディ		L 2 P 2 P 2 P 2 P 2 P 4	教職実践インターンシップに関する科目		教職実践インターンシップ I 教職実践インターンシップ II		S1・P1 S0.5・P1.5	
実践場面分析演習	発達支援教育コース	<幼年教育> 実践場面分析演習「幼年教育」	S 2		実践場面分析演習	学校教育専攻	グローバル・ICT・学習研究コース	実践場面分析演習「グローバル・ICT・学習研究」	S 2	
		<特別支援教育> 実践場面分析演習「特別支援教育」	S 2				道徳・生徒指導コース	実践場面分析演習「道徳・生徒指導」	S 2	
	<学校ヘルスケア> 実践場面分析演習「学校ヘルスケア」	S 2		教育連携コース			実践場面分析演習「教育連携」	S 2		
	心理臨床コース	実践場面分析演習「心理臨床」	S 2				臨床心理学コース	実践場面分析演習「臨床心理」	S 2	
	学校教育深化コース	<文理深化・国語> 実践場面分析演習「国語」	S 2				幼年教育コース	実践場面分析演習「幼年教育」	S 2	
		<文理深化・英語> 実践場面分析演習「英語」	S 2				特別支援教育コース	実践場面分析演習「特別支援教育」	S 2	
		<文理深化・社会> 実践場面分析演習「社会」	S 2							
		<文理深化・数学>								

	実践場面分析演習「数学」	S 2	
	<文理深化・理科> 実践場面分析演習「理科」	S 2	
	<文理深化・技術> 実践場面分析演習「技術」	S 2	
	<文理深化・家庭> 実践場面分析演習「家庭」	S 2	
	<芸能深化・音楽> 実践場面分析演習「音楽」	S 2	
	<芸能深化・美術> 実践場面分析演習「美術」	S 2	
	<芸能深化・保健体育> 実践場面分析演習「体育」	S 2	
国際理解・日本語教育コース	実践場面分析演習「国際理解・日本語教育」	S 2	
教職キャリア支援コース	実践場面分析演習「教職キャリア」	S 2	

(2) 専攻科目

区分	対象とするコース	授業科目	単位数及び授業方法等	
			必修	選択
課題研究プロジェクト科目	全コース（発達支援教育コース（特別支援教育）及び心理臨床コースを除く。）	課題研究スタディーズ	S 2	
	発達支援教育コース（特別支援教育）	課題研究スタディーズ（特別支援教育）	S 2	
	心理臨床コース	課題研究スタディーズ（心理臨床）	S 2	
専攻科	全コース	<幼年教育> 幼年教育特論 幼年教育研究		L 2 L1・S1

	ス		
教科・領域教育専攻	言語系教育実践コース	<国語> 実践場面分析演習「国語」	S 2
		<英語> 実践場面分析演習「英語」	S 2
	社会系教育実践コース	実践場面分析演習「社会」	S 2
		自然系教育実践コース	<数学> 実践場面分析演習「数学」
	芸術系教育実践コース	<理科> 実践場面分析演習「理科」	S 2
		<音楽> 実践場面分析演習「音楽」	S 2
	生活・健康系教育実践コース	<美術> 実践場面分析演習「美術」	S 2
		<保健体育> 実践場面分析演習「体育」	S 2
		<技術> 実践場面分析演習「技術」	S 2
		<家庭> 実践場面分析演習「家庭」	S 2
		<学校ヘルスケア> 実践場面分析演習「学校ヘルスケア」	S 2

(2) 専攻科目

領域	対象とする専攻・コース	授業科目	単位数及び授業方法等	
			必修	選択
専門科目	全専攻・コース	国際理解・地域教育デザイン		L1・S1
		国際理解教育特論		L 2
		持続発展教育と地球環境問題特論		L1・S1
		総合学習カリキュラム開発特論		L1・S1
		日本語教育特論		L 2
		日本語教育演習		S 2
		総合学習科学論		L 2
		I C Tを活用した教育・情報教育デザイン		L1・S1
		情報教育の授業づくり		L 2
		情報ネットワークを利用した教育と学習		L 2

		発達障害応用教育臨床実習		P 4									
		<学校ヘルスケア>											
		教科内容構成特論「保健」		L 2									
		学校精神保健特論		L 2									
		学校精神保健演習		S 2									
		スポーツ健康科学特論		L1・S1									
		生体情報分析実験		P 2									
		学校養護特論		L 2									
		学校養護演習		S 2									
		養護社会関係論		L 2									
		養護教諭教育・学習論		L 2									
		食教育特論		L 2									
		食教育演習		S 2									
		健康栄養学特論		L 2									
		健康栄養学演習		S 2									
		栄養教諭教育論		L 2									
		栄養教諭教育演習		S 2									
		栄養情報解析論		L 2									
		栄養情報解析演習		S 2									
		学校健康教育特論		L 2									
		学校健康教育演習		S 2									
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		L 2									
		臨床薬理学特論		L 2									
		心理学統計法特論Ⅰ		L1・S1									
		心理学統計法特論Ⅱ		L1・S1									
		健康教育の方法及び技術		L1・S1									
		対人関係学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		L 2									
		幼年発達心理学		L 4									
		子どもの発達研究法		L1・S1									
		自閉症スペクトラム障害・情緒障害教育総論		L 1									
心理臨床に関	心理臨床コース	臨床心理学特論Ⅰ		L 2									
		臨床心理学特論Ⅱ		L 2									
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）		L 2									
		臨床心理面接特論Ⅱ		L 2									
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメ		S 2									
する科目		学年・学級経営特論										L 2	
		教育法制特論										L 2	
		教育政策特論										L 2	
		学校経営特論A（学校組織連携）										L 2	
		学校経営特論B（学校危機管理）										L 2	
		教育環境デザイン特論										L 2	
		心理学特殊実験										P 2	
		教育実践評価法特論Ⅰ										L1・S1	
		教育実践評価法特論Ⅱ										L1・S1	
		教育心理学特論										L 2	
		発達心理学特論										L 2	
		動機づけと学習特論										L 2	
		授業の心理学特論										L 2	
		学校社会心理学特論										L 2	
		学級集団心理学特論										L 2	
		生徒指導特論										L 2	
		学校教育相談特論										L 2	
		臨床心理学基礎論										L 2	
		発達障害学特論										L 2	
		学校カウンセリング演習										S 2	
		心理教育的アセスメント演習										S 2	
臨床心理学に	臨床心理学	臨床心理学特論Ⅰ										L 2	
		臨床心理学特論Ⅱ										L 2	
		臨床心理面接特論Ⅰ										L 2	
		臨床心理面接特論Ⅱ										L 2	
		臨床心理査定演習Ⅰ										S 2	
		臨床心理査定演習Ⅱ										S 2	
		臨床心理基礎実習Ⅰ										P 2	
		臨床心理基礎実習Ⅱ										P 2	
		面接指導実習A											P 1
		面接指導実習B											P 1
		面接指導実習C											P 1
		面接指導実習D											P 1
		面接指導実習E											P 1
		面接指導実習F											P 1
		面接指導実習G											P 1
		臨床心理実習ⅠA											P 4
		臨床心理実習ⅠB											P 4
		臨床心理実習ⅠC											P 4
		臨床心理実習ⅠD											P 4

る 科 目	国語学演習 B	S 2	言 語 系 教 育 実 践 に 関 す	聴覚障害教育臨床実習	P 4
	国文学特論 A	L 2		知的障害教育臨床実習	P 4
	国文学特論 B	L 2		肢体不自由教育臨床実習	P 4
	国文学演習 A	S 2		病弱教育臨床実習	P 4
	国文学演習 B	S 2		情緒障害教育総論	L 1
	書写書道特論	L 2		言語障害教育総論	L 2
	書写書道演習	S 2		重複障害教育総論	L 2
	<文理深化・英語>			発達障害教育総論	L 1
	教科内容構成特論「英語」	L 2		言語障害教育臨床実習	P 4
	英文法指導基礎論	L 2		重複障害教育臨床実習	P 4
	英文法指導演習	S 2		発達障害教育臨床実習	P 4
	英語文学特論	L 2		特別支援教育観察・参加	P 2
	英語文学演習	S 2		特別支援学校教育実習	L1・P2
	異文化コミュニケーション特論	L 2		特別支援教育特論 A	L 2
	異文化コミュニケーション演習	S 2		特別支援教育特論 B	L 2
	英語科教育原理特論	L 2		障害児自立活動論	L 2
	英語科教育第二言語習得特論	L 2		重複障害教育特論	L 2
	英語科教育教材分析演習	S 2		重複障害心理特論	L 2
	小学校英語教育原論	L 2		障害者心理検査法	P 2
	小学校英語授業評価・研究法演習	S 2		特別支援教育研究法	L 2
	小学校英語教育特論	L 2		特別支援教育研究法演習	S 4
	小学校英語レッスン・スタディーズ演習	S 2		聴覚障害指導法特論	L 2
	<文理深化・社会>			視覚障害応用教育臨床実習	P 4
	教科内容構成特論「社会」	L 2		聴覚障害応用教育臨床実習	P 4
	自然地理学特論	L 2		知的障害応用教育臨床実習	P 4
	地理情報学特論	L 2		肢体不自由応用教育臨床実習	P 4
	地域環境・地誌学特論	L 2		病弱応用教育臨床実習	P 4
	地域研究実験	P 2		言語障害応用教育臨床実習	P 4
	日本史特論 A	L 2		重複障害応用教育臨床実習	P 4
	日本史特論 B	L 2		発達障害応用教育臨床実習	P 4
	世界史特論	L 2		<国語>	
	倫理学特論	L 2		国語科教育特論 A	L 2
	宗教学特論	L 2		国語科教育特論 B	L 2
	法学特論	L 2		国語科教育特論 C	L 2
	政治学特論	L 2		国語科教育演習 A	S 2
	経済学特論	L 2		国語科教育演習 B	S 2
	社会学特論	L 2		国語科教育演習 C	S 2
	社会科教育特論 A	L 2		国語学特論 A	L 2
	社会科教育特論 B	L 2		国語学特論 B	L 2
				国語学特論 C	L 2

社会科教育特論C	L 2	る 科 目	国語学演習A	S 2
地理歴史科教育論	L1・S1		国語学演習B	S 2
公民科教育論	L1・S1		国語学演習C	S 2
<文理深化・数学>			国文学特論A	L 2
教科内容構成特論「算数・数学」	L 2		国文学特論B	L 2
数学授業実践演習	S 2		国文学演習A	S 2
代数学特論	L 2		国文学演習B	S 2
代数学演習	S 2		漢文学特論	L 2
幾何学特論	L 2		書写書道特論	L 2
幾何学演習	S 2		書写書道演習	S 2
解析学特論	L 2	日本語教育特論	L 2	
解析学演習	S 2	日本語教育演習	S 2	
数学教育学基礎論	L 2	教科内容構成特論「国語」	L 2	
数学教育学実践論	L 2	<英語>		
数学教育学教材論	L 2	英語学演習	S 2	
<文理深化・理科>		生成文法特論	L 2	
教科内容構成特論「理科」	L 2	生成文法演習	S 2	
現代物理学特論	L 2	談話文法特論	L 2	
電磁物性特論	L 2	英語文化圏文学特論	L 2	
無機・分析化学特論	L 2	アメリカ文学演習	S 2	
有機化学特論	L 2	現代英語特論	L 2	
物質化学実験	P 2	現代英語演習	S 2	
動物学特論	L 2	英語科教育原理特論	L 2	
植物学特論	L 2	英語科教育方法演習	S 2	
地圏環境進化学特論	L 2	英語科教育学習特論	L 2	
宇宙科学特論	L 2	英語科教育第二言語習得特論	L 2	
物理教材研究	S 2	英語科教育教材分析演習	S 2	
化学教材研究	S 2	小学校英語教育特論	L 2	
地学教材研究	S 2	小学校英語教育原論	L 2	
生物教材研究	L 2	小学校英語評価・研究法演習	S 2	
理科教育学特論Ⅰ	L 2	小学校英語コミュニケーション演習	S 2	
理科教育学特論Ⅱ	L 2	教科内容構成特論「英語」	L 2	
<文理深化・技術>		自然地理学特論	L 2	
教科内容構成特論「技術」	L 2	地理情報学特論	L 2	
木材加工学特論	L1・S1	地域環境・地誌学特論	L 2	
木質材料学特論	L1・S1	地域研究実験	P 2	
金属加工学特論	L1・S1	日本史特論A	L 2	
機械工学特論	L1・S1	日本史特論B	L 2	
電気工学特論	L1・S1	世界史特論	L 2	
生物環境工学特論	L1・S1	倫理学特論	L 2	
		社 会 系 教 育 実 践 に		

情報技術特論	L1・S1	関する科目	宗教学特論	L 2
プログラミング技術演習	S 4		法律学特論	L 2
工業科教育特論	L 2	自然系教育実践に関する科目	政治学特論	L 2
技術科教育特論	L 2		経済学特論	L 2
工業科教育演習	S 2		社会学特論	L 2
技術科教育演習	S 2		社会科教育特論A	L 2
<文理深化・家庭>			社会科教育特論B	L 2
教科内容構成特論「家庭」	L 2		社会科教育特論C	L 2
家庭経営学特論	L1・S1		地理歴史科教育論	L1・S1
家族関係学特論	L1・S1		公民科教育論	L1・S1
被服構成学特論	L 2		教科内容構成特論「社会」	L 2
被服衛生・機構学特論	L 1		<数学>	
被服学特別実験	P 1		代数学特論	L 2
食物学特論	L 2		代数学演習	S 2
食物学特別実験	P 1		幾何学特論	L 2
住居学特論	L 2		幾何学演習	S 2
住居学演習	S 2		解析学特論	L 2
児童学特論	L 2		解析学演習	S 2
家庭科教育論	L 2		数学教育学基礎論	L 2
家庭科教育学特論	L 2		数学教育学実践論	L 2
家庭科授業研究	S 2		数学教育学教材論	L 2
家庭科教育学演習	S 2		数学授業実践演習	S 2
<芸能深化・音楽>			教科内容構成特論「算数・数学」	L 2
教科内容構成特論「音楽」	L 2		<理科>	
音楽教育研究法	L 2		現代物理学特論	L 2
音楽教育学演習	S 2		電磁物性特論	L 2
音楽教育と創作表現活動	L 2		無機・分析化学特論	L 2
音楽教育と芸術表現活動	L 2		有機化学特論	L 2
ソルフェージュ特論A	S 1		物質化学実験	P 2
ソルフェージュ特論B	S 1	理科教育学特論Ⅰ	L 2	
声楽演奏研究Ⅰ（独唱）	S 2	理科教育学特論Ⅱ	L 2	
声楽演奏研究Ⅱ（アンサンブル）	S 2	動物学特論	L 2	
声楽演奏研究Ⅲ（合唱）	S 2	細胞学特論	L 2	
音楽劇研究	S 2	植物学特論	L 2	
ピアノ演奏研究Ⅰ（独奏）	S 2	細胞学実験	P 2	
ピアノ演奏研究Ⅱ（アンサンブルを含む。）	S 2	地球物質科学特論	L 2	
ピアノ演奏研究Ⅲ	S 2	地圏環境進化学特論	L 2	
鍵盤楽器音楽史	S 2	宇宙科学特論	L 2	
管楽器演奏研究（独奏）	S 2	物理教材研究	S 2	
		化学教材研究	S 2	

	管楽器教育研究		S 2		地学教材研究		S 2
	器楽アンサンブル		S 2		生物教材研究		L 2
	合奏教材研究		S 2		理科野外観察指導原理		L 2
	指揮法研究		S 2		理科野外観察指導事例研究		L 2
	作曲		S 2		理科野外観察指導実験		P 2
	楽曲分析		S 2		理科野外観察指導実習A		P0.5
	日本音楽研究		S 2		理科野外観察指導実習B		P0.5
	音楽学特論A		L 2		理科野外観察指導実習C		P0.5
	音楽学特論B		L 2		理科野外観察指導実習D		P0.5
	音楽学演習		S 2		理科野外観察指導実習E		P0.5
	和楽器演習		S 2		理科野外観察指導実習F		P0.5
	民族音楽学特論		S 2		理科野外観察指導実習G		P0.5
	<芸能深化・美術>				理科野外観察指導実習H		P0.5
	教科内容構成特論「図画工作・美術」		L 2		理科野外観察指導実習I		P0.5
	美術科教育論		L 2		理科野外観察指導実習J		P0.5
	美術科教育方法演習		S 2		教科内容構成特論「理科」		L 2
	美術科教育教材開発演習		S 2		<音楽>		
	美術史特論		L 2		音楽教育研究法		L 2
	工芸・デザイン論		L 1		音楽科教育学演習		S 2
	人物画研究		P 1		総合的学習と音楽科		L 2
	油彩画・版画研究		P 2		総合芸術と表現活動		L 2
	日本画研究		P 2		音楽における心理と発達		L 1
	塑造研究		P 2		ソルフェージュ特論A		S 1
	人体表現研究		P 1		ソルフェージュ特論B		S 1
	実材研究		P 2		声楽演奏研究Ⅰ（独唱）		S 2
	視覚・メディアデザイン研究		P 2		声楽演奏研究Ⅱ（アンサンブル）		S 2
	木工芸研究		S 2		声楽演奏研究Ⅲ（合唱）		S 2
	陶芸研究		P 2		音楽劇研究		S 2
	<芸能深化・保健体育>				ピアノ演奏研究Ⅰ（独奏）		S 2
	教科内容構成特論「体育・保健体育」		L 2		ピアノ演奏研究Ⅱ（アンサンブルを含む。）		S 2
	保健体育科教育特論		L 2		ピアノ演奏研究Ⅲ		S 2
	保健体育科教育内容・指導論		L 2		鍵盤楽器音楽史		S 2
	運動制御特論		L 2		管楽器演奏研究（独奏）		S 2
	運動方法学演習（サッカー）		S 2		教育楽器研究		S 2
	運動方法学演習（武道）		S 2		器楽アンサンブル		S 2
	体育心理学特論		L 2		合奏教材研究		S 2
	スポーツ健康科学特論		L1・S1		指揮法研究		S 2
	国際教育研究特論		L 2		作曲		S 2
	国際教育研究演習		S 2		楽曲分析A		S 2
	音楽教育と創作表現活動		L 2				
国 際 理				芸術系 教育実 践に 関す る科 目			

	保育内容研究セミナーⅡ		S 4
	<特別支援教育>		
	特別支援教育実践学研究セミナーⅠ	S 4	
	特別支援教育実践学研究セミナーⅡ	S 4	
	<学校ヘルスケア>		
	学校健康教育研究セミナーⅠ		S 4
	学校健康教育研究セミナーⅡ		S 4
	食教育研究セミナーⅠ		S 4
	食教育研究セミナーⅡ		S 4
心理臨床コース	心理臨床研究セミナーⅠ	S 4	
	心理臨床研究セミナーⅡ	S 4	
学校教育深化コース	<文理深化・国語>		
	国語学基礎研究セミナー		S 4
	国語学応用研究セミナー		S 4
	国文学基礎研究セミナー		S 4
	国文学応用研究セミナー		S 4
	書写書道基礎研究セミナー		S 4
	書写書道応用研究セミナー		S 4
	国語科教育基礎研究セミナー		S 4
	国語科教育応用研究セミナー		S 4
	<文理深化・英語>		
	英語学基礎研究セミナー		S 4
	英語学応用研究セミナー		S 4
	英語教育基礎研究セミナー		S 4
	英語教育応用研究セミナー		S 4
	小学校英語教育基礎研究セミナー		S 4
	小学校英語教育応用研究セミナー		S 4
	異文化コミュニケーション基礎研究セミナー		S 4
	異文化コミュニケーション応用研究セミナー		S 4
	<文理深化・社会>		
	地理学研究セミナーⅠ		S 4
	地理学研究セミナーⅡ		S 4
	日本史研究セミナーⅠ		S 4
	日本史研究セミナーⅡ		S 4
	世界史研究セミナーⅠ		S 4
	世界史研究セミナーⅡ		S 4
	倫理学研究セミナーⅠ		S 4
	倫理学研究セミナーⅡ		S 4

実践に関する科目

	運動方法学演習（水泳）		S 2
	運動方法学演習（武道）		S 2
	体育学特論		L 2
	体育心理学特論		L 2
	体育心理学実験		P 2
	体育経営学特論		L 2
	バイオメカニクス実験		P 2
	バイオメカニクス特論		L 2
	舞踊学特論		L 2
	教育保健学特論		L 2
	教育保健学演習		S 2
	教科内容構成特論「体育・保健体育」		L 2
	<技術>		
	木材加工学特論		L 2
	木材加工学実験実習		P 1
	金属加工学特論		L 2
	金属加工学実験実習		P 1
	機械工学特論		L 2
	機械工学実験実習		P 1
	電気工学特論		L 2
	電気回路特論		L 2
	電気技術実験実習		P 1
	栽培環境特論		L 2
	情報システム工学特論		L 2
	応用情報システム工学演習		S 2
	技術科教育原理特論		L 2
	技術科教育方法特論		L 2
	技術科教育教材分析演習		S 1
	技術科教育教材開発演習		S 1
	教科内容構成特論「技術」		L 2
	<家庭>		
	家庭経営学特論		L 2
	家族関係学特論		L 2
	暮らしの新素材と資源循環型社会		L 2
	被服構成学特論		L 2
	被服衛生・機構学特論		L 1
	被服学特別実験Ⅰ		P 1
	被服学特別実験Ⅱ		P 1
	食物学特論		L 2
	食物学特別実験		P 1

宗教学研究セミナーⅠ		S 4			住居学特論		L 2
宗教学研究セミナーⅡ		S 4			住居学演習		S 2
法律学研究セミナーⅠ		S 4			児童学特論		L 2
法律学研究セミナーⅡ		S 4			家庭科教育学特論A		L 2
経済学研究セミナーⅠ		S 4			家庭科教育学特論B		L 2
経済学研究セミナーⅡ		S 4			家庭科教育論		L 2
社会学研究セミナーⅠ		S 4			家庭科教育学演習		S 2
社会学研究セミナーⅡ		S 4			教科内容構成特論「家庭」		L 2
社会科教育学研究セミナーⅠ		S 4			<学校ヘルスケア>		
社会科教育学研究セミナーⅡ		S 4			学校精神保健特論		L 2
<文理深化・数学>					学校精神保健演習		S 2
代数学研究セミナーⅠ		S 4			教育保健学特論		L 2
代数学研究セミナーⅡ		S 4			教育保健学演習		S 2
幾何学研究セミナーⅠ		S 4			養護実践学特論		L 2
幾何学研究セミナーⅡ		S 4			養護実践学演習		S 2
解析学研究セミナーⅠ		S 4			食品機能学特論		L 2
解析学研究セミナーⅠⅠ		S 4			食品機能学実験		P 1
数学教育学研究セミナーⅠ		S 4			食教育特論		L 2
数学教育学研究セミナーⅡ		S 4			食教育演習		S 2
<文理深化・理科>					学校健康教育特論		L 2
物理学研究セミナーⅠ		S 4			学校健康教育演習		S 2
物理学研究セミナーⅡ		S 4			運動・スポーツ科学特論		L 2
化学研究セミナーⅠ		S 4			教材作成プログラミング入門		S 2
化学研究セミナーⅡ		S 4			総合学習特論		L 2
生物学研究セミナーⅠ		S 4			臨床薬理学特論		L 2
生物学研究セミナーⅡ		S 4			教育実地調査分析演習Ⅰ		S 2
地学研究セミナーⅠ		S 4			学校経営特論A（学校組織連携）		L 2
地学研究セミナーⅡ		S 4			学校経営特論B（学校危機管理）		L 2
理科教育学研究セミナーⅠ		S 4			家族・集団心理学特論		L 2
理科教育学研究セミナーⅡ		S 4			発達心理学特論		L 2
<文理深化・技術>					学校カウンセリング演習		S 2
メカトロニクス研究セミナーⅠ		S 4			子どもの発達心理学		L 2
メカトロニクス研究セミナーⅡ		S 4			情緒障害教育総論		L 1
応用電気理論研究セミナーⅠ		S 4			特別支援教育特論A		L 2
応用電気理論研究セミナーⅡ		S 4			特別支援教育特論B		L 2
情報技術研究セミナーⅠ		S 4			精神医学特論		L 2
情報技術研究セミナーⅡ		S 4					
技術科教育・木材加工研究セミナーⅠ		S 4		専	学校	グローバル・ICT・学習研究セミナーⅠ	S 4
技術科教育・木材加工研究セミナーⅡ		S 4		門	教	グローバル・ICT・学習研究セミナーⅡ	S 4
技術科教育研究セミナーⅠ		S 4		セ	育		
				ミ			

技術科教育研究セミナーⅡ		S 4
<文理深化・家庭>		
家庭経営学研究セミナーⅠ		S 4
家庭経営学研究セミナーⅡ		S 4
被服学研究セミナーⅠ		S 4
被服学研究セミナーⅡ		S 4
食物学研究セミナーⅠ		S 4
食物学研究セミナーⅡ		S 4
児童学研究セミナーⅠ		S 4
児童学研究セミナーⅡ		S 4
家庭科教育学研究セミナーⅠ		S 4
家庭科教育学研究セミナーⅡ		S 4
<芸能深化・音楽>		
音楽教育研究セミナーⅠ		S 4
音楽教育研究セミナーⅡ		S 4
音楽学研究セミナーⅠ		S 4
音楽学研究セミナーⅡ		S 4
声楽研究セミナーⅠ		S 4
声楽研究セミナーⅡ		S 4
器楽研究セミナーⅠ		S 4
器楽研究セミナーⅡ		S 4
作曲研究セミナーⅠ		S 4
作曲研究セミナーⅡ		S 4
<芸能深化・美術>		
絵画教育基礎研究セミナー		S 4
絵画教育応用研究セミナー		S 4
彫刻教育基礎研究セミナー		S 4
彫刻教育応用研究セミナー		S 4
デザイン教育基礎研究セミナー		S 4
デザイン教育応用研究セミナー		S 4
工芸教育基礎研究セミナー		S 4
工芸教育応用研究セミナー		S 4
美術科教育基礎研究セミナー		S 4
美術科教育応用研究セミナー		S 4
<芸能深化・保健体育>		
運動方法学研究セミナーⅠ		S 4
運動方法学研究セミナーⅡ		S 4
学校保健学研究セミナーⅠ		S 4
学校保健学研究セミナーⅡ		S 4
保健体育科教育研究セミナーⅠ		S 4

ナ I	専 攻	道徳・生徒指導コース	道徳・生徒指導研究セミナーⅠ	S 4		
			道徳・生徒指導研究セミナーⅡ	S 4		
		教育連携コース	教育連携研究セミナーⅠ	S 4		
			教育連携研究セミナーⅡ	S 4		
		臨床心理学コース	臨床心理研究セミナーⅠ	S 4		
			臨床心理研究セミナーⅡ	S 4		
		幼年教育コース		幼年教育・教育研究セミナーⅠ		S 4
				幼年教育・教育研究セミナーⅡ		S 4
				子どもの発達理解研究セミナーⅠ		S 4
				子どもの発達理解研究セミナーⅡ		S 4
子どもの生活環境研究セミナーⅠ				S 4		
子どもの生活環境研究セミナーⅡ				S 4		
特別支援教育コース		特別支援教育実践学研究セミナーⅠ	S 4			
		特別支援教育実践学研究セミナーⅡ	S 4			
教 科 ・ 領 域 教 育 専 攻	言語系教育実践コース	<国語>				
		国語科教育基礎研究セミナー		S 4		
		国語科教育応用研究セミナー		S 4		
		国語学基礎研究セミナー		S 4		
		国語学応用研究セミナー		S 4		
		国文学基礎研究セミナー		S 4		
		国文学応用研究セミナー		S 4		
		書写書道基礎研究セミナー		S 4		
		書写書道応用研究セミナー		S 4		
		<英語>				
		英語学基礎研究セミナー		S 4		
		英語学応用研究セミナー		S 4		
		英米文学基礎研究セミナー		S 4		
		英米文学応用研究セミナー		S 4		
英語教育基礎研究セミナー		S 4				
英語教育応用研究セミナー		S 4				
小学校英語教育基礎研究セミナー		S 4				
小学校英語教育応用研究セミナー		S 4				
異文化コミュニケーション基礎研究セミナー		S 4				
異文化コミュニケーション応用研究セミナー		S 4				
社会系教育実践コース		地理学研究セミナーⅠ		S 4		
		地理学研究セミナーⅡ		S 4		
		日本史研究セミナーⅠ		S 4		
		日本史研究セミナーⅡ		S 4		

		保健体育科教育研究セミナーⅡ		S 4
	国際理解・日本語教育コース	国際理解・日本語教育基礎研究セミナー		S 4
		国際理解・日本語教育応用研究セミナー		S 4
	教職キャリア支援コース	教職キャリア研究セミナーⅠ	S 4	
		教職キャリア研究セミナーⅡ	S 4	

(3) 実習科目

区 分	対象とするコース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
実習科目	全コース（心理臨床コースを除く。）	課題研究フィールドワークⅠ（学校）		P 2
		課題研究フィールドワークⅡ（学校）		P 2
		課題研究フィールドワークⅠ（学校外）		P 2
		課題研究フィールドワークⅡ（学校外）		P 2
		課題研究フィールドワーク（視覚障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（聴覚障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（知的障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（肢体不自由教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（病弱教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（言語障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（発達障害教育臨床実習）		P 4
		心理臨床コース	課題研究フィールドワーク（臨床心理実習Ⅰ・心理実践実習Ⅰ）	P 4

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

		世界史研究セミナーⅠ		S 4	
		世界史研究セミナーⅡ		S 4	
		倫理学研究セミナーⅠ		S 4	
		倫理学研究セミナーⅡ		S 4	
		宗教学研究セミナーⅠ		S 4	
		宗教学研究セミナーⅡ		S 4	
		法律学研究セミナーⅠ		S 4	
		法律学研究セミナーⅡ		S 4	
		経済学研究セミナーⅠ		S 4	
		経済学研究セミナーⅡ		S 4	
		社会学研究セミナーⅠ		S 4	
		社会学研究セミナーⅡ		S 4	
		社会科教育学研究セミナーⅠ		S 4	
		社会科教育学研究セミナーⅡ		S 4	
自然系教育実践コース	<数学>	代数学研究セミナーⅠ		S 4	
		代数学研究セミナーⅡ		S 4	
		幾何学研究セミナーⅠ		S 4	
		幾何学研究セミナーⅡ		S 4	
		解析学研究セミナーⅠ		S 4	
		解析学研究セミナーⅡ		S 4	
		数学教育学研究セミナーⅠ		S 4	
		数学教育学研究セミナーⅡ		S 4	
		<理科>	物理学研究セミナーⅠ		S 4
			物理学研究セミナーⅡ		S 4
	化学研究セミナーⅠ			S 4	
	化学研究セミナーⅡ			S 4	
	生物学研究セミナーⅠ			S 4	
	生物学研究セミナーⅡ			S 4	
	地学研究セミナーⅠ			S 4	
	地学研究セミナーⅡ			S 4	
	理科教育学研究セミナーⅠ			S 4	
	理科教育学研究セミナーⅡ			S 4	
			理科野外観察指導研究セミナーⅠ		S 4
			理科野外観察指導研究セミナーⅡ		S 4
芸術系教育実践コース	<音楽>	音楽教育研究セミナーⅠ		S 4	
		音楽教育研究セミナーⅡ		S 4	
		音楽学研究セミナーⅠ		S 4	

			音楽学研究セミナーⅡ		S 4
			声楽研究セミナーⅠ		S 4
			声楽研究セミナーⅡ		S 4
			器楽研究セミナーⅠ		S 4
			器楽研究セミナーⅡ		S 4
			作曲研究セミナーⅠ		S 4
			作曲研究セミナーⅡ		S 4
			<美術>		
			絵画教育基礎研究セミナー		S 4
			絵画教育応用研究セミナー		S 4
			彫刻教育基礎研究セミナー		S 4
			彫刻教育応用研究セミナー		S 4
			デザイン教育基礎研究セミナー		S 4
			デザイン教育応用研究セミナー		S 4
			工芸教育基礎研究セミナー		S 4
			工芸教育応用研究セミナー		S 4
			美術史教育基礎研究セミナー		S 4
			美術史教育応用研究セミナー		S 4
			美術科教育基礎研究セミナー		S 4
			美術科教育応用研究セミナー		S 4
	生活・健康系教育実践コース		<保健体育>		
			運動方法学研究セミナーⅠ		S 4
			運動方法学研究セミナーⅡ		S 4
			体育学研究セミナーⅠ		S 4
			体育学研究セミナーⅡ		S 4
			体育心理学研究セミナーⅠ		S 4
			体育心理学研究セミナーⅡ		S 4
			保健体育科教育研究セミナーⅠ		S 4
			保健体育科教育研究セミナーⅡ		S 4
			バイオメカニクス研究セミナーⅠ		S 4
			バイオメカニクス研究セミナーⅡ		S 4
			学校保健学研究セミナーⅠ		S 4
			学校保健学研究セミナーⅡ		S 4
			<技術>		
			金属加工学研究セミナーⅠ		S 4
			金属加工学研究セミナーⅡ		S 4
			メカトロニクス研究セミナーⅠ		S 4
			メカトロニクス研究セミナーⅡ		S 4
			応用電気理論研究セミナーⅠ		S 4
			応用電気理論研究セミナーⅡ		S 4

		知識情報処理研究セミナーⅠ		S 4
		知識情報処理研究セミナーⅡ		S 4
		技術科教育研究セミナーⅠ		S 4
		技術科教育研究セミナーⅡ		S 4
		技術科教育・木材加工研究セミナーⅠ		S 4
		技術科教育・木材加工研究セミナーⅡ		S 4
		<家庭>		
		家庭経営学研究セミナーⅠ		S 4
		家庭経営学研究セミナーⅡ		S 4
		被服学研究セミナーⅠ		S 4
		被服学研究セミナーⅡ		S 4
		食物学研究セミナーⅠ		S 4
		食物学研究セミナーⅡ		S 4
		児童学研究セミナーⅠ		S 4
		児童学研究セミナーⅡ		S 4
		家庭科教育学研究セミナーⅠ		S 4
		家庭科教育学研究セミナーⅡ		S 4
		<学校ヘルスケア>		
		学校健康教育研究セミナーⅠ		S 4
		学校健康教育研究セミナーⅡ		S 4
		食教育研究セミナーⅠ		S 4
		食教育研究セミナーⅡ		S 4

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

2 専門職学位課程

(1) 共通科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
教育課程の編成及び実施に関する科目	全コース	教育課程の編成・実施の実践と課題	1・2		L1・S1
		教育課程の編成・実施とカリキュラム・マネジメント	1・2		L1・S1
		カリキュラムマネジメントと学習過程	1・2		L1・S1
		SDGs時代の教育課程の編成・実施の実際	1・2		L1・S1
		子どもの発達と学校のカリキュラム	1・2		L1・S1
		社会に開かれた教育課程のマネジメント	1・2		L1・S1
教科等		教科の本質を踏まえた授業づくりの	1・2		L2・S2

2 専門職学位課程

(1) 臨床共通科目

領域	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
教育課程の編成及び実施に関する科目	全コース	教育課程の編成・実施の実践と課題	1・2	S 4	
		教科等の実践的な指導方法の実践と課題	1・2	S 4	
生徒指導		子ども理解、生徒指導、教育相談	1・2	S 4	

の実践的な指導方法に関する科目	実践と課題				及び教育相談に関する科目	の実践と課題			
	生活科の教科特性に基づくスタートカリキュラム	1・2		L1・S1					
	教科等の実践的な指導方法の実践と課題	1・2		L1・S1	学級経営及び学校経営に関する科目	学級経営，学校経営の実践と課題	1・2	S 4	
	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる授業づくりの実践と課題	1・2		L1・S1					
	言語カリテラシーの学習デザイン	1・2		L1・S1	学校教育と教員の在り方に関する科目	学校教育と教員の在り方に関する事例研究	1・2	S 4	
	カリキュラム・マネジメントを育む理科学習デザイン論	1・2		L1・S1					
	未来志向を促す課題を想定した各教科の授業デザイン	1・2		L1・S1					
	教科教育実践における理論と実践の往還	1・2		L1・S1					
	道徳科における授業デザイン	1・2		L1・S1					
	協同的な授業づくり	1・2		L1・S1					
	ファシリテーションと授業づくり	1・2		L1・S1					
	主体的な子どもを育む授業づくりの理論と実際	1・2		S 4					
	教員に求められる研修とコミュニケーション	1・2		S 4					
	教科の横断と開発	1・2		L 2					
	教科学習と授業デザイン	1・2		L1・S1					
	I C Tを活用した教育・情報教育デザイン	1・2		L1・S1					
	アクティブラーニングと授業研究	1・2		L1・S1					
	自然科学教育における教材研究	1・2		L1・S1					
	多様な子どもに応じた授業の構成	1・2		L1・S1					
	生徒指導及び教育相談に関する科目	子ども理解，生徒指導，教育相談の実践と課題	1・2		L1・S1				
児童生徒理解と信頼関係に基づく生徒指導・教育相談		1・2		L1・S1					
子ども理解と問題行動に対する指導の課題と実践		1・2		L1・S1					
特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解		1・2		L1・S1					
特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する教育実践と課題		1・2		L1・S1					
生徒指導の理論と実践Aー道徳教育・特別活動・キャリア教育・学校教		1・2		S 2					

		育相談の視点から－ 生徒指導の理論と実践B－いじめ等 先端課題の理論と実践－	1・2		S 2
学級経営及び 学校経営に 関する科目		学級経営、学校経営の実践と課題	1・2		L1・S1
		「より良い集団づくりを目指す学級 担任」と「授業検討会を組織する研 究主任」の理論と実践	1・2		L1・S1
		協同的な学びを実現する学級経営	1・2		L1・S1
		学級経営の実践と課題	1・2		L1・S1
		学級・学校の集団力学と経営実践	1・2		L1・S1
		教育の経営と社会	1・2		L1・S1
学校教育と教員 の在り方に 関する科目		学校教育と教員の在り方に関する事 例研究	1・2		L1・S1
		学校教育と教員の在り方に関する実 践と課題	1・2		L2・S2
		教育の国際的動向と教育連携のデザ イン	1・2		L1・S1
		社会の変化に応じる教員の役割	1・2		L1・S1

(2) コース別選択科目

区分	対象とする コース	授業科目	履修 年次	単位数及び授業方法等			
				必	修	選	択
学校支援 プロジェクト 科目	教科教育・ 学級経営実 践コース	教科教育・学級経営実践リフレクシ ョンⅠ	1	S	4		
		教科教育・学級経営実践リフレクシ ョンⅡ	1・2	S	4		
	先端教科・ 領域開発研 究コース	先端教科・領域開発研究リフレクシ ョンⅠ	1	S	4		
		先端教科・領域開発研究リフレクシ ョンⅡ	2	S	4		
	学習臨床・ 授業研究コ ース	学習臨床・授業研究リフレクション Ⅰ	1	S	4		
		学習臨床・授業研究リフレクション Ⅱ	2	S	4		
	現代教育課 題研究コ ース	<発達と教育連携> 現代教育課題研究リフレクションⅠ (発達と教育連携)	1	S	2		
		現代教育課題研究リフレクションⅡ (発達と教育連携)	1・2	S	2		
	<道徳・生徒指導>						

(2) コース別選択科目

領域	対象とする コース	授業科目	履修 年次	単位数及び授業方法等		
				必	修	選 択
学校支援 プロジェクト 科目	教育臨床コ ース	教育臨床リフレクションⅠ	1	S	4	
		教育臨床リフレクションⅡ	2	S	4	
	教育経営コ ース	教育経営リフレクションⅠ	1	S	4	
		教育経営リフレクションⅡ	1・2	S	4	
学校支援 プロジェクト 科目	教育臨床コ ース	教育臨床プレゼンテーションⅠ	1	S	1	
		教育臨床プレゼンテーションⅡ	2	S	1	
プロフェ ッショナル 科目	教育臨床コ ース	教育経営プレゼンテーションⅠ	1	S	1	
		教育経営プレゼンテーションⅡ	1・2	S	1	
		『学び合い』の授業論	1・2			S 2
		学習デザイン論	1・2			S 2
		勇気づけの学級づくり論	1・2			S 2
		授業と学校の改善に向けた教育調査	1・2			S 2

る 科 目		道徳教育の理論と実際	1・2		S 2		教育経営の理論と実際	1・2		L1・S1
		協同的な学習実践論	1・2		S 2		教育経営総合演習	1・2		S 2
		中学校高等学校国語科授業づくり演習	1・2		S 2		教育的学校経営の基礎技法	1・2		S 2
		カリキュラム・マネジメント実践論	1・2		S 2		『学び合い』による学校運営論	1・2		S 2
		総合的な学習を中核とした教育課程論	1・2		S 2		研修デザイン論	1・2		S 2
							効果的な学校づくり論	1・2		S 2
先 端 教 科 ・ 領 域 開 発 研 究 に 関 す る 科 目	先端教科・領域開発研究コース	<コース共通>					道徳教育を核とした教育経営論	1・2		S 2
		教科等の学習活動における困難の実態と支援	1・2			L1・S1	言語活動を中核とした校内研究のデザイン	1・2		S 2
		<小学校英語>	小学校英語授業と協同学習	1・2		L1・S1	教科主任・研究主任・指導主事の教育経営	1・2		S 2
			英語授業とファシリテーション技術	1・2		L1・S1	校内研修のための授業分析の理論と実際	1・2		S 2
			小学校英語教育概論	1・2		L1・S1	校内授業研究と運営	1・2		S 2
			英語科教育第二言語習得特論	1・2		L 2	幼小連携を中核とした学校運営	1・2		S 2
			グローバル化と教育	1・2		L1・S1	総合的な学習を生かした特色ある教育課程の経営	1・2		S 2
			外国につながる複言語複文化の子どもの教育支援	1・2		L1・S1	特別支援教育を支える学校経営論	1・2		S 2
			<プログラミング教育>				教育組織マネジメント	1・2		L1・S1 S
		教員に求められる研修とコミュニケーション	1・2			教育リソースのネットワークづくり論	1・2		2	
		情報化社会における教育	1・2			子どもの将来を見据えたカリキュラムデザイン論	1・2		S 2	
		教科におけるプログラミング教育	1・2			グローバル化と教育	1・2		S 2	
		学校教育と統計・評価	1・2							
		<教科横断・教科実践開発>								
		授業実践分析の理論と実際	1・2			L 2				
		ことばと教育実践	1・2			S 2				
		社会系教科の理論と実践－地理教育を中核に－	1・2			L 2				
		社会系教科の理論と実践－歴史教育を中核に－	1・2			L 2				
		社会系教科の理論と実践－公民教育を中核に－	1・2			L 2				
		教科横断に係る算数・数学教材論	1・2			L1・S1				
	理科教材研究	1・2			L 2					
	「子ども・表現・学校」その実際と課題	1・2			S 2					
	状況論からの教育実践研究	1・2			L 2					
	教科横断と心理的な学習支援	1・2			S 2					
	技術科教育教材特論	1・2			L 2					

		<学習支援> 学習活動に困難のある子どものアセスメントと支援	1・2		L1・S1
		通級による指導と通常の学級における自立活動の指導	1・2		L1・S1
		学習活動に困難のある子どもの個別の指導計画作成	1・2		L1・S1
学習臨床・授業研究コース 学習臨床・授業研究に関する科目	学習臨床・授業研究コース	国際理解教育の理論と実際	1・2		L1・S1
		SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2		L1・S1
		総合学習カリキュラムデザイン	1・2		L1・S1
		日本語教育演習	1・2		L1・S1
		自然環境学習デザイン	1・2		L1・S1
		学習臨床における教育工学	1・2		L1・S1
		情報ネットワークを利用した教育と学習	1・2		L1・S1
		教材作成プログラミング入門	1・2		L1・S1
		算数・数学の学習過程と授業デザイン	1・2		L1・S1
		国語学習過程デザイン	1・2		L1・S1
		主体的学びの臨床過程	1・2		L1・S1
		学習論と授業づくり	1・2		L1・S1
		カリキュラムマネジメント	1・2		L1・S1
資質・能力ベースのカリキュラムデザイン	1・2		L1・S1		
現代教育課題研究コース 現代教育課題研究に関する科目	現代教育課題研究コース	<発達と教育連携>			S 2
		子どもの認知発達論	1・2		S 2
		発達と教育の評価	1・2		L1・S1
		動機づけと学習	1・2		L1・S1
		教師と子どもの社会心理学	1・2		L1・S1
		現代の教師と教育の哲学	1・2		L1・S1
		構造変動の教育社会学	1・2		L 2
		排除と包摂の教育社会論	1・2		S 2
		グローバル化と教育	1・2		L1・S1
		教育とジェンダー特論	1・2		S 2
		教育環境デザイン特論	1・2		L 2
		教育法規の理解と学校における実践	1・2		L1・S1
		学校組織連携論	1・2		L1・S1
学校危機管理論	1・2		L1・S1		
教育組織マネジメント	1・2		L1・S1		

	現代の教育改革とビジョン	1・2	S 2
	カリキュラム・マネジメント	1・2	L1・S1
	外国につながる複言語複文化の子どもたちの教育支援	1・2	L1・S1
	SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2	L1・S1
	教育研究における質的研究方法論	1・2	S 2
	教育経営総合演習Ⅰ	1・2	S 2
	教育経営総合演習Ⅱ	1・2	S 2
	<道徳・生徒指導>		
	教科内容構成「道徳」の理論と実践	1・2	S 2
	道徳教育の理論と実践	1・2	S 2
	学校教育相談の理論	1・2	L 2
	学校教育相談の実践	1・2	S 2
	特別活動の理論	1・2	L 2
	特別活動の実践	1・2	S 2
	キャリア教育の理論	1・2	L 2
	キャリア教育の実践	1・2	S 2
全コース	<共通>		
	教育課程行政特論	1・2	L 2
	海外教育実践研究A	1・2	P 2
	海外教育実践研究B	1・2	P 2
	海外教育実践研究C	1・2	P 2
	海外教育実践研究D	1・2	P 2
	海外実践フィールドスタディ	1・2	P 4

(3) 実習科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
学校支援フィールドワーク	全コース	学校支援フィールドワークⅠ（ストレート）	1		P 5
		学校支援フィールドワークⅡ（ストレート）	2		P 5
		学校支援フィールドワークⅠ（現職）	1		P 3
		学校支援フィールドワークⅡ（現職）	1・2		P 3
		学校支援フィールドワークⅠ（特別）	1		P 2
		学校支援フィールドワークⅡ（特別）	1・2		P 2
		現代教育課題研究コース	学校支援フィールドワーク（特別：教育経営）	1	

(3) 実習科目

領域	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
学校支援フィールドワーク	教育臨床コース	学校支援フィールドワークⅠ（ストレート）	1		P 5
		学校支援フィールドワークⅡ（ストレート）	2		P 5
	全コース	学校支援フィールドワークⅠ（現職）	1		P 3
		学校支援フィールドワークⅡ（現職）	1・2		P 3
		学校支援フィールドワークⅠ（特別）	1		P 2
		学校支援フィールドワークⅡ（特別）	1・2		P 2

ス

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

3 修士課程及び専門職学位課程共通

区分	授 業 科 目	履修年次	単位数及び授業方法
自由科目	博士課程進学特別セミナーⅠ	1・2	S 2
	博士課程進学特別セミナーⅡ	1・2	S 2

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

3 修士課程及び専門職学位課程共通

区分	授 業 科 目	履修年次	単位数及び授業方法
自由科目	博士課程進学特別セミナーⅠ	1・2	S 2
	博士課程進学特別セミナーⅡ	1・2	S 2

【学内規則集 第7章 教務】

(改正理由)

教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）並びに大学改革による上越教育大学教育研究組織規則（平成20年規則第1号）の改正に伴い、大学院学校教育研究科の学生に係る教育組織及び履修内容を整備するとともに規定の整備を行う等の所要の改正を行うものである。

② 学校教育学部

上越教育大学学校教育学部履修規程（平成16年規程第70号）の一部を改正する新旧対照表

改正案（平成31年度入学生）	現 行（平成30年度入学生）																											
<p>(趣旨) 第1条 略</p>	<p>(趣旨) 第1条 この規程は、上越教育大学学則（平成16年学則第1号）第37条の規定に基づき、学校教育学部（以下「学部」という。）における専修の目的、開設する授業科目及びその履修方法等について必要な事項を定める。</p>																											
<p>(専修の目的) 第2条 学部の専修において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="123 491 1093 635"> <thead> <tr> <th>専 修 名</th> <th>目 的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学 校 教 育 専 修</td> <td>臨床的視点及び教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。</td> </tr> </tbody> </table>	専 修 名	目 的	学 校 教 育 専 修	臨床的視点及び教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。	<p>(専修の目的) 第2条 学部の専修において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1153 491 2123 746"> <thead> <tr> <th>専 修 名</th> <th>目 的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学 校 教 育 専 修</td> <td>臨床的視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。</td> </tr> <tr> <td>教科・領域教育専修</td> <td>教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。</td> </tr> </tbody> </table>	専 修 名	目 的	学 校 教 育 専 修	臨床的視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。	教科・領域教育専修	教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。																	
専 修 名	目 的																											
学 校 教 育 専 修	臨床的視点及び教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。																											
専 修 名	目 的																											
学 校 教 育 専 修	臨床的視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。																											
教科・領域教育専修	教科教育の多様な視点から学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、広く豊かな知識を授けるとともに、教育実践の場における優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的とする。																											
<p>(コース・領域) 第3条 学生は、初等教育全般にわたる総合的な理解を深め、初等教育教員として必要な資質能力を培うとともに、特定の分野についての専門性を深めるため、2年次から次の表に掲げるコース・領域のいずれかに所属し履修するものとする。</p> <table border="1" data-bbox="123 901 967 1476"> <thead> <tr> <th>専 修 名</th> <th>コ ー ス 名</th> <th>領 域 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">学 校 教 育 専 修</td> <td rowspan="2">学校教育実践コース</td> <td>教科教育実践領域</td> </tr> <tr> <td>学級経営実践領域</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">先端教科・領域学習コース</td> <td>小学校英語領域</td> </tr> <tr> <td>プログラミング教育領域</td> </tr> <tr> <td>教科横断領域</td> </tr> <tr> <td>学習支援領域</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">現代教育課題コース</td> <td>学習臨床・授業研究領域</td> </tr> <tr> <td>発達と教育連携領域</td> </tr> <tr> <td>道徳・生徒指導領域</td> </tr> <tr> <td>幼年教育コース</td> <td>幼年教育領域</td> </tr> <tr> <td>心理臨床コース</td> <td>臨床心理領域</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">教科内容構成コース</td> <td>国語領域</td> </tr> <tr> <td>英語領域</td> </tr> <tr> <td>社会領域</td> </tr> <tr> <td>数学領域</td> </tr> <tr> <td>理科領域</td> </tr> <tr> <td>音楽領域 美術領域</td> </tr> </tbody> </table>	専 修 名	コ ー ス 名	領 域 名	学 校 教 育 専 修	学校教育実践コース	教科教育実践領域	学級経営実践領域	先端教科・領域学習コース	小学校英語領域	プログラミング教育領域	教科横断領域	学習支援領域	現代教育課題コース	学習臨床・授業研究領域	発達と教育連携領域	道徳・生徒指導領域	幼年教育コース	幼年教育領域	心理臨床コース	臨床心理領域	教科内容構成コース	国語領域	英語領域	社会領域	数学領域	理科領域	音楽領域 美術領域	<p>(専修・コース) 第3条 学生は、初等教育全般にわたる総合的な理解を深め、初等教育教員として必要な資質能力を培うとともに、特定の分野についての専門性を深めるため、2年次から学校教育専修（学校臨床、臨床心理学、幼児教育及び教職デザインの各コース）及び教科・領域教育専修（言語系、社会系、自然系、芸術系及び生活・健康系の各コース）のいずれかに所属し履修するものとする。</p>
専 修 名	コ ー ス 名	領 域 名																										
学 校 教 育 専 修	学校教育実践コース	教科教育実践領域																										
		学級経営実践領域																										
	先端教科・領域学習コース	小学校英語領域																										
		プログラミング教育領域																										
		教科横断領域																										
		学習支援領域																										
	現代教育課題コース	学習臨床・授業研究領域																										
		発達と教育連携領域																										
		道徳・生徒指導領域																										
	幼年教育コース	幼年教育領域																										
	心理臨床コース	臨床心理領域																										
	教科内容構成コース	国語領域																										
		英語領域																										
		社会領域																										
数学領域																												
理科領域																												
音楽領域 美術領域																												

	保健体育領域
	技術領域
	家庭領域

2 各コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

専修名	コース名	コースの学生数
学校教育専修	学校教育実践コース	約20人
	先端教科・領域学習コース	約10人
	現代教育課題コース	約25人
	幼年教育コース	約9人
	心理臨床コース	約6人
	教科内容構成コース	約90人

3 学長は、学生の適性、希望その他の条件等を考慮の上、当該学生に係る前2項に定めるコース・領域を決定する。

(進級)

第4条 略

(教員免許状の取得)

第5条 卒業に必要な単位を修得することによって取得することができる教員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

専修名	コース名	教員の免許状の種類
学校教育専修	学校教育実践コース	小学校教諭一種免許状
	先端教科・領域学習コース	
	現代教育課題コース	幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状
	幼年教育コース	
	心理臨床コース	
教科内容構成コース	小学校教諭一種免許状	

2 卒業に必要な単位のほか教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の定めるところに従い、所要の単位を修得することによって取得することができる教員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

2 各専修・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

専修名	コース名	専修・コースの学生数
学校教育専修	学校臨床コース	約31人
	臨床心理学コース	約6人
	幼児教育コース	約9人
	教職デザインコース	約14人
教科・領域教育専修	言語系コース	約23人
	社会系コース	約14人
	自然系コース	約18人
	芸術系コース	約18人
	生活・健康系コース	約27人

3 学長は、学生の適性、希望その他の条件等を考慮の上、当該学生に係る前項に定める専修及びコースを決定する。

(進級)

第4条 学生の進級は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

- (1) 2年次に進級できる学生は、1年次終了時において必修科目20単位以上（別表に規定する授業科目「人間教育学セミナー（教職の意義）」を含む。）を修得した者とする。
- (2) 4年次に進級できる学生は、3年次終了時において卒業要件単位のうち90単位以上（別表に規定する授業科目「教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）」を含む。）を修得した者とする。
- 2 前項の進級の判定は、各学年末に行うものとする。
- 3 病気その他やむを得ない理由により第1項第2号の「教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）」を修得することができなかった者については、教育上支障のない場合に限り、教務委員会で審議の上、特別に進級を認めることができる。

(教員免許状の取得)

第5条 卒業に必要な単位を修得することによって取得することができる教員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

専修名	コース名	教員の免許状の種類
学校教育専修	学校臨床コース	小学校教諭一種免許状
	臨床心理学コース	
	幼児教育コース	幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状
	教職デザインコース	小学校教諭一種免許状
教科・領域教育専修	言語系コース	小学校教諭一種免許状
	社会系コース	
	自然系コース	
	芸術系コース	
	生活・健康系コース	

2 卒業に必要な単位のほか教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の定めるところに従い、所要の単位を修得することによって取得することができる教員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

る。

専修名	コース名	教員の免許状の種類
学校教育専修	学校教育実践コース	幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語）
	先端教科・領域学習コース	
	現代教育課題コース	高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
	幼年教育コース	中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
	心理臨床コース	幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語）
	教科内容構成コース	高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）

3 前2項の表に掲げる免許状のうち，小学校又は中学校の教員の普通免許状を取得しようとする者は，小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）及び小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則（平成9年文部省令第40号）に定める介護等の体験を行わなければならない。

る。

専修名	コース名	教員の免許状の種類（免許教科）
学校教育専修	学校臨床コース	幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
	臨床心理学コース	
	幼児教育コース	中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
	教職デザインコース	幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
教科・領域教育専修	言語系コース	幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）
	社会系コース	
	自然系コース	
	芸術系コース	
	生活・健康系コース	

3 前2項の表に掲げる免許状のうち，小学校又は中学校の教員の普通免許状を取得しようとする者は，小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）及び小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則（平成9年文部省令第40号）に定める介護等の体験を行わなければならない。

（保育士の資格）

第6条 略

（保育士の資格）

第6条 学生は，卒業に必要な単位のほか児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）の定めるところに従い，所要の単位を修得することによって保育士の資格を取得することができる。
2 保育士の資格を取得できる学生数は，1学年20人とする。

（授業科目の区分）

第7条 授業科目の区分・内容は，次の表に掲げるとおりとする。

授業科目の区分	内 容
人間教育学関連科目	教員の原点である人間理解を，体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。
相互コミュニケーション科目	初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である。
ブリッジ科目	十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培

（授業科目の区分）

第7条 授業科目の区分・内容は，次の表に掲げるとおりとする。

授業科目の区分	内 容
人間教育学関連科目	教員の原点である人間理解を，体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。
相互コミュニケーション科目	初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である。
ブリッジ科目	十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培い，

	い、さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。
教育実践科目	各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によって教育実践力を養成することを目的とする科目群である。
教職実践演習科目	教員として必要な知識技能を修得したことを確認するための科目である。
専門科目	コース・領域ごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。
卒業研究	コース・領域の専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果をまとめあげるための科目である。

	さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。
教育実践科目	各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によって教育実践力を養成することを目的とする科目群である。
教職実践演習科目	教員として必要な知識技能を修得したことを確認するための科目である。
専門科目	各専修・コースごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。
卒業研究	専修・コースの専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果をまとめあげるための科目である。

(卒業要件と履修単位の区分)

第8条 卒業要件を満たすためには、学部にて4年以上在学し、次の表に掲げる授業科目の区分ごとの単位に基づき134単位を修得しなければならない。

区	分	卒業要件単位	
		右記以外のコース	幼年教育コース
人間教育学関連科目	人間教育学セミナー	教職の意義等に関する科目	2
	実践的人間理解科目	体験学習	3
		スポーツ実践	2
		観察・参加実習	1
		異文化理解	8
	基礎的人間形成科目	憲法と教育	2
教育の基礎理論		14	16
	指導法の基礎理論	8	18
相互コミュニケーション科目	情報	5	
	表現	2	
ブリッジ科目	教科に関する専門的事項	20	
教育実践科目	各教科の指導法	20	
	ガイダンス	4	6
	教育実習	7	
教職実践演習科目		2	
専門科目	専門科目	20	6
	専門セミナー	8	
	実践セミナー	2	
卒業研究		4	
合	計	134	

(卒業要件と履修単位の区分)

第8条 卒業要件を満たすためには、学部にて4年以上在学し、次の表に掲げる授業科目の区分ごとの単位に基づき132単位を修得しなければならない。

区	分	卒業要件単位		
		右記以外のコース	学校教育専修 幼児教育コース	教科・領域教育専修
人間教育学関連科目	人間教育学セミナー	教職の意義等に関する科目	2	
	実践的人間理解科目	体験学習	3	
		スポーツ実践	2	
		観察・参加実習	1	
		異文化理解	8	
	基礎的人間形成科目	憲法と教育	2	
教育の基礎理論		12	14	12
	指導法の基礎理論	6	16	6
相互コミュニケーション科目	情報	5		
	表現	4		
ブリッジ科目	ブリッジ科目Ⅰ	18		
	ブリッジ科目Ⅱ	2		
教育実践科目	各教科の指導法	20		
	ガイダンス	4	6	4
	教育実習	7		
教職実践演習科目		2		
専門科目	専門科目	20	6	20
	専門セミナー	8		
	実践セミナー	2		
卒業研究		4		
合	計	132		

(授業科目名、標準履修年次、単位数、必修・選択等の区分等)

第9条 略

(授業科目名、標準履修年次、単位数、必修・選択等の区分等)

第9条 授業科目の区分に属する授業科目名及びその標準履修年次、単位数、必修・選択等については、別表に掲げるとおりとする。

2 標準履修年次については、原則として上位学年の科目を履修することができない。ただし、下位学年の科目については、自由に履修することができる。

(履修登録)

第10条 略

(履修登録)

第10条 学生は、当該年度内に履修しようとする授業科目について、別に定めるところ

(履修登録の上限)
第11条 略

2 前項に規定する単位数には、次の表に掲げる授業科目の単位数は含まないものとする。

授 業 科 目	
体験学習	
ボランティア体験	
学校ボランティアA (学校支援体験)	
学校ボランティアB (学校支援体験)	
観察・参加実習の区分に属する授業科目	
教育実習の区分に属する授業科目	
(削る)	
幼稚園専修教育実習	
保育実習指導I	
保育実習I	
保育実習指導II	
保育実習II	
保育実習指導III	
保育実習III	
保育実習指導IV	
保育実習IV	
卒業研究	
履修方法が「自由」となっている授業科目	
集中講義で行う授業科目 (一部を集中講義として行う授業科目を除く。)	

3 略

(試験)
第12条 略

(追試験)
第13条 略

に従い履修登録を行わなければならない。

(履修登録の上限)
第11条 学生が、年度毎に履修登録を行うことができる単位数は、入学年度においては48単位、次年度以降の各学年においては第17条に定める履修登録しようとする年度の直前の年度のGPAに基づき次の表に掲げる単位数を上限とする。ただし、当該GPAが3.0以上の学生にあつては、申請に基づき8単位を超えない範囲で、履修登録単位数の超過を認めることがある。

学年	直前の年度のGPA			
	1.5未満	1.5以上2.0未満	2.0以上2.5未満	2.5以上
1	48	48	48	48
2	48	52	56	58
3	48	52	56	58
4	40	40	40	42

2 前項に規定する単位数には、次の表に掲げる授業科目の単位数は含まないものとする。

授 業 科 目	
体験学習	
ボランティア体験	
学校ボランティアA (学校支援体験)	
学校ボランティアB (学校支援体験)	
観察・参加実習の区分に属する授業科目	
教育実習の区分に属する授業科目	
情報専修教育実習	
幼稚園専修教育実習	
保育実習指導I	
保育実習I	
保育実習指導II	
保育実習II	
保育実習指導III	
保育実習III	
保育実習指導IV	
保育実習IV	
卒業研究	
履修方法が「自由」となっている授業科目	
集中講義で行う授業科目 (一部を集中講義として行う授業科目を除く。)	

3 休学や病気欠席等のやむを得ない事由により、当該年度の直前の年度のすべての授業科目を履修できなかった学生が履修登録を行うことができる単位数は、第1項の表の2.0以上2.5未満の欄に定める単位数を上限とする。

(試験)
第12条 試験は、定期試験及び臨時試験(小テストを含む。以下同じ。)とする。
2 定期試験は、各授業科目の受講を終了した者について、学年末又は学期末に行うものとする。ただし、出席時数が単位修得に必要な授業時数の3分の2に達しない者は、原則として受験資格を失うものとする。
3 定期試験を実施する科目について当該試験を受けない場合は、単位は与えないものとする。
4 臨時試験は、授業担当教員が必要と認めるときは、随時行うことができる。

(追試験)
第13条 病気その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者

- は、授業担当教員への願い出によって追試験を受けることができる。
- 前項の病気その他やむを得ない理由とは、次の各号に掲げるものをいう。
 - 負傷又は疾病
 - 進学、就職試験等進路に関わるもの
 - 父母、兄弟姉妹及び祖父母に関わる忌引き
 - その他前3号と同等と認められる事由

(再試験)

第14条 略

(再試験)

- 第14条** 第8条に規定する卒業要件又は取得を希望する幼稚園教諭免許状、中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状に係る所要資格を、4単位以内の修得単位数不足のため満たすことができない者は、願い出によって再試験を受けることができる。
- 前項に規定する修得不足単位数は、卒業年次に試験を受けて不合格となった授業科目の単位に限るものとする。
 - 再試験の実施に関し必要な事項は、別に定める。

(成績の評価)

第15条 授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、当該評語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ~ 90点	合格 (シラバスに記載された到達目標等を上回る水準に達している。)
A	89点 ~ 80点	合格 (シラバスに記載された到達目標等を十分に達成している。)
B	79点 ~ 70点	合格 (シラバスに記載された到達目標等を概ね達成している。)
C	69点 ~ 60点	合格 (シラバスに記載された到達目標等の最低限度の水準に達している。)
D	59点 以下	不合格とし、単位を与えない。(シラバスに記載された到達目標等に達していない。)

- 次条第3項に規定する成績の評価方法等で示した要件を満たさない場合は、当該授業科目について評価対象外とする。
- 再試験により合格となったときの成績は、Cとする。
- 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。

(成績の評価方法等)

第16条 略

(成績の評価)

第15条 授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、当該評語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ~ 90点	合格 (特に優秀な成績)
A	89点 ~ 80点	合格 (優れた成績)
B	79点 ~ 70点	合格 (標準的な成績)
C	69点 ~ 60点	合格 (合格として認められる成績)
D	59点 以下	不合格とし、単位を与えない。

(新設)

- 再試験により合格となったときの成績は、Cとする。
- 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。

(成績の評価方法等)

- 第16条** 成績の評価は、各授業科目の教育目標に対する学生の到達度を見るため、講義、演習、実験、実習及び実技等の授業形態に応じた適切な評価方法及び評価基準に基づき行うものとする。
- 成績の評価は、学期の途中においても適宜行うものとし、その結果を学生に明示することにより、教育目標への到達度を高められるよう配慮しなければならない。
 - 成績の評価方法は、定期試験、臨時試験、課題レポート、発表、討論、提出作品、授業への参加態度、予習・復習等の自主的学修態度その他多様な要素を可能な限り組み合わせるものとする。
 - クラス又はグループ指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない。

(学修成果の評価及び開示)

第17条 略

(学修成果の評価及び開示)

第17条 履修し成績が付与された各授業科目の成績に対して、次の表に掲げるグレード・ポイント (以下「G P」という。) を与え、これに基づき1単位当たりの成績の平均

2 略

3 前項の規定にかかわらず、次の表に掲げる授業科目については、GPA算出対象授業科目から除くものとする。

授 業 科 目
人間教育学セミナー（教職の意義）
体験学習
ボランティア体験
学校ボランティアA（学校支援体験）
学校ボランティアB（学校支援体験）
観察・参加実習の区分に属する授業科目
教育実習の区分に属する授業科目 （削る）
幼稚園専修教育実習
保育実習指導Ⅰ
保育実習Ⅰ
保育実習指導Ⅱ
保育実習Ⅱ
保育実習指導Ⅲ
保育実習Ⅲ
保育実習指導Ⅳ
保育実習Ⅳ
専門セミナーの区分に属する授業科目
卒業研究
履修方法が「自由」となっている授業科目

4 略

（不正行為）

第18条 略

（修学指導）

第19条 上越教育大学学校教育学部クラス制度及び学生組織要項（平成16年4月1日学長裁定）第4項の規定に基づき指名されたクラス担当教員は、学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに、関係教職員と連携を図り、適切な修学指導を行うものとする。

2 クラス担当教員が行う主な修学指導は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に、未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）
- (2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言

値（以下「GPA」という。）を算出する。

成 績	G P
S（90点～100点）	4
A（80点～89点）	3
B（70点～79点）	2
C（60点～69点）	1
D（59点以下）	0

2 GPAは、次の算式により算出し、小数点第3位を四捨五入する。

$$GPA = \frac{\text{当該年度において成績が付与された各授業科目等の単位数} \times GP}{\text{当該年度において成績が付与された各授業科目等の単位数の和}}$$

3 前項の規定にかかわらず、次の表に掲げる授業科目については、GPA算出対象授業科目から除くものとする。

授 業 科 目
人間教育学セミナー（教職の意義）
体験学習
ボランティア体験
学校ボランティアA（学校支援体験）
学校ボランティアB（学校支援体験）
観察・参加実習の区分に属する授業科目
教育実習の区分に属する授業科目
情報専修教育実習
幼稚園専修教育実習
保育実習指導Ⅰ
保育実習Ⅰ
保育実習指導Ⅱ
保育実習Ⅱ
保育実習指導Ⅲ
保育実習Ⅲ
保育実習指導Ⅳ
保育実習Ⅳ
専門セミナーの区分に属する授業科目
卒業研究
履修方法が「自由」となっている授業科目

4 学生から修学・進学等を目的としてGPA情報開示の申し出があった場合は、学習意欲向上に資するため、当該学生のGPA値及び学年等の全体分布値を開示するものとする。

（不正行為）

第18条 試験の際に学生が不正行為を行った場合は、当該授業科目の受験は無効とし、その状況によっては当該学期の授業科目の受験全部を無効とすることがある。

（修学指導）

第19条 上越教育大学学校教育学部クラス制度及び学生組織要項（平成16年4月1日学長裁定）第4項の規定に基づき指名されたクラス担当教員は、学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに、関係教職員と連携を図り、適切な修学指導を行うものとする。

2 クラス担当教員が行う主な修学指導は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に、未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）
- (2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言

- (3) 病欠欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言
 (4) 授業料等の納付に係る指導・助言
 (5) 学生の休学、復学、転学、留学、退学及び転コース・領域の願い出に対する適切な指導・助言
 3 クラス担当教員が交代するときは、修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

- (3) 病欠欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言
 (4) 授業料等の納付に係る指導・助言
 (5) 学生の休学、復学、転学、留学、退学及び転専修・コース等の願い出に対する適切な指導・助言
 3 クラス担当教員が交代するときは、修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

(オフィス・アワーの実施)

第20条 略

(オフィス・アワーの実施)

- 第20条** 授業担当教員は、修学上の問題解決に役立てるため、あらかじめ各研究室等において学生からの履修相談や授業に関する質問等に応ずる時間帯（以下「オフィス・アワー」という。）を設定し、シラバス及び履修の手引等に公開することにより学生に的確に周知しなければならない。
 2 オフィス・アワーの実施方法は、次の各号に掲げるとおりとする。
 (1) 授業担当教員は、毎週一定日において1時間以上のオフィス・アワーを設定すること。ただし、やむを得ない事情がある場合は、この限りでない。
 (2) オフィス・アワーの利用は、授業担当教員に対し学生からの事前連絡を要件とするものではないこと。ただし、オフィス・アワーの利用を希望する学生は、その時間の有効活用のため、授業担当教員に対し事前に相談等の内容を連絡するよう努めるものとする。
 (3) 非常勤講師等で研究室を有しない場合は、電子メール等により相談に対応すること。
 (4) 授業担当教員は、オフィス・アワーの実施状況及び実施方法を自ら点検し、必要に応じて改善に努めること。

(成績の通知)

第21条 略

(成績の通知)

- 第21条** 学生の成績は、父母等又は保証人に通知するものとする。
 2 成績の通知の時期は、各年度末とし、当該年度までに履修した授業科目の成績を掲載するものとする。ただし、次年度の在籍予定者に限るものとする。

(細則)

第22条 略

(細則)

- 第22条** この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、学長が定める。

別表（第4条，第9条関係）

区 分			対象とするコース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等				標準履修年次	摘 要
					必 修	選 択	自 由			
人間教育学関連科目	人間教育学セミナーⅠ	教職の意義等に関する科目	全コース	人間教育学セミナー（教職の意義）	S 2				1	
	実践的人間理解科	体験学習		体験学習 ボランティア体験 学校ボランティアA(学校支援体験) 学校ボランティアB(学校支援体験) 生活の中の科学	P 1 L0.5・P 0.5 L0.5・P 0.5		L0.5・P 0.5 L0.5・P 0.5		1 1 2 3 2	

別表（第4条，第9条関係）

区 分			対象とする専修・コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等				標準履修年次	摘 要
					必 修	選 択	自 由			
人間教育学関連科目	人間教育学セミナーⅠ	教職の意義等に関する科目	全専修・コース	人間教育学セミナー（教職の意義）	S 2				1	
	実践的人間理解科	体験学習		体験学習 ボランティア体験 学校ボランティアA(学校支援体験) 学校ボランティアB(学校支援体験) 生活の中の科学	P 1 L0.5・P0.5 L0.5・P0.5 L0.5・P0.5		L0.5・P0.5 L0.5・P0.5		1 1 2 3 2	

自然体験演習		S 2		2	
(発達と教育連携)	(2)				
教育学研究法		L 2		2	
心理学研究法		L 2		2	
教育心理学概論(教育・学校心理学)		L 2		2	
教育社会学		L 2		2	
教育本質論		L 2		2	
教育の哲学と思想		L 2		2	
生涯学習概論A		L 2		2	
生涯学習概論B		L 2		2	
社会教育計画A		L 2		2	
社会教育計画B		L 2		2	
学校組織論		L 2		2	
現代社会と学校		L 2		2	
教師・授業文化論		L 2		2	
教育と法規		L 2		2	
比較教育学		L 2		2	
年少者日本語教育		L1・S1		2	
教師のライフコース		L1・S1		2	
心理学統計法		L 2		2	
心理学実験		P 2		3	
心理学演習		S 2		2	
発達心理学		L 2		2	
学習心理学(学習・言語心理学)		L 2		3	
認知心理学(知覚・認知心理学)		L 2		2	
学校社会心理学(社会・集団・家族心理学)		L 2		3	
臨床心理学概論		L 2		2	
心理演習		S 2		2	
教育評価の方法と技術(心理的アセスメント)		L 2		2	
(道徳・生徒指導)					
教科内容構成「道徳」	L 2		3		
教育学研究法	L 2		2		
教育社会学	L 2		2		
生涯学習概論A	L 2		2		
生涯学習概論B	L 2		2		
社会教育計画A	L 2		2		
社会教育計画B	L 2		2		
学校教育相談	L 2		2		
学校教育相談基礎演習	S 2		3		
キャリア教育基礎演習	S 2		2		
特別活動基礎演習	S 2		3		
現代社会と学校	L 2		2		
教育と法規	L 2		2		
教師・授業文化論	L 2		2		
人間形成論	L 2		2		
年少者日本語教育	L1・S1		2		
教師のライフコース	L1・S1		2		
幼年教育コース	L 2				
子どもの教育・保育概論	L1・S1		2	6単位以上を修得すること。	
発達支援の心理学	L1・S1		3		
教育と保育の原理	L 2		3		
乳児保育I	L 2		2		
乳児保育II	S 1		2		
子どもの生活と環境	L 2		3		
子どもの福祉	L 2		3		
食と栄養	S 2		2		
保育内容総論	S 1		2		
社会福祉	L 2		2		

情報システム論		L 2		3	
情報システム演習		S 2		4	
データベース演習		S 2		2	
教育ネットワーク演習		S 2		2	
ネットワークコミュニケーション論		S 2		2	
情報ネットワーク演習		S 2		3	
マルチメディア教材制作演習		S 2		3	
教育環境とインタフェース		S 2		3	
マルチメディア表現演習		S 2		4	
情報と職業		L 2		3	
情報科指導法(授業論)		S 2		3	
情報科指導法(学習論)		S 2		3	
情報科指導法(教材論)		S 2		4	
情報科指導法(過程論)		S 2		4	
情報専修教育実習		P 2		4	
野外体験演習		S 2		2	
学習臨床支援基礎演習		S 2		3	
地域文化教育論		L 2		3	
環境教育概論		L 2		3	
教科内容構成「総合的な学習の時間」		L 2		3	
(生徒指導総合)					
教育社会学		L 2		2	
教育の哲学と思想		L 2		2	
生涯学習概論A		L 2		2	
生涯学習概論B		L 2		2	
社会教育計画A		L 2		2	
社会教育計画B		L 2		2	
学校教育相談		L 2		3	
現代子ども論		L 2		3	
教育工学		L 2		3	
学校教育相談基礎演習		S 2		4	
キャリア教育基礎演習		S 2		4	
特別活動基礎演習		S 2		3	
学校社会心理学		L 2		3	
学校組織論		L 2		2	
現代社会と学校		L 2		2	
教育と法規		L 2		2	
人権と教育行政		L 2		4	
比較教育学		L 2		2	
現代教師論		L 2		3	
教科内容構成「道徳」		L 2		3	
(学校心理)					
教育心理学概論	L 2			2	
心理統計解析	L 2			2	
心理学実験	P 2			2	
心理学演習	S 2			2	
発達心理学		L 2		2	
児童心理学		L 2		2	
青年心理学		L 2		2	
学習心理学		L 2		3	
認知心理学		L 2		2	
学校社会心理学		L 2		2	
臨床心理学		L 2		3	
カウンセリング基礎演習		S 2		2	
学力診断論		L 2		2	
臨床心理学		L 2		2	20単位以上を修得すること。
心理		L 2		2	
学コ		L 2		2	

英語学概論		L 2	2
英文法		L 2	3
英語学演習		S 2	3
英語文学概論		L 2	3
英語文学演習		S 2	3
英語コミュニケーション基礎論		L 2	2
英語コミュニケーション演習 (会話の原理)		S 2	2
英語コミュニケーション演習 (異文化理解を通じたリーディング)		L 2	2
英語コミュニケーション演習 (ライティング)		S 2	3
比較文化		L 2	3
異文化理解教育		L 2	3
中等英語科指導法 (基礎論)	L1・S1		2
中等英語科指導法 (教授法)	L1・S1		2
中等英語科指導法 (授業論)	L1・S1		3
中等英語科指導法 (学習論)		L1・S1	4
(社会)			
教科内容構成「社会」		L 2	3
日本史研究A		L 2	2
日本史研究B		L 2	2
考古学認識論		L 2	3
日本前近代社会史認識論		L 2	3
日本近現代社会史認識論		L 2	3
地域調査法A		S 2	2
歴史・民俗資料演習		S 2	3
世界史研究入門		L 2	2
ユーラシア史認識論		L 2	3
ヨーロッパ史認識論		L 2	3
自然地理学概説		L 2	2
人文地理学概説		L 2	2
地理学実験		P 2	2
地域調査法B		S 2	2
自然地理学		L 2	3
地理情報学		L 2	3
地理学野外実験		P 2	2
地誌学概説		L 2	2
地域環境学		L 2	3
法律学概説		L 2	2
法律学文献講読		L 2	3
政治学概説		L 2	2
経済学概説		L 2	2
社会学概説		L 2	2
社会認識手法論		L 2	3
経済学文献講読		L 2	3
社会学文献講読		L 2	3
地域調査法C		S 2	2
現代社会論		L 2	3
倫理学概説		L 2	2
哲学概説		L 2	2
宗教学概説		L 2	2
倫理学文献講読		L 2	3
哲学文献講読		L 2	3
宗教学文献講読		L 2	3
宗教思想史研究		L 2	2
学校社会心理学 (社会・集団・家族心理学)		L 2	3
社会科・地理歴史科教育学基礎		L 2	2
社会科・公民科教育学基礎		L 2	2
社会科・地理歴史科指導法		L 2	3

領域教育専修	国語学講読C		L 2	2	上を修得すること。
	国語学演習A		S 2	3	
	国語学演習B		S 2	3	
	国語学演習C		S 2	3	
	国文学講読A		L 2	3	
	国文学講読B		L 2	2	
	国文学演習A		S 2	4	
	国文学演習B		S 2	3	
	漢文学講読		L 2	3	
	書写書道I		S 2	2	
	書写書道II		S 2	3	
	書の表現と文化		L1・S1	3	
	教科内容構成「国語」		L 2	3	
	中等国語科指導法 (課程論)	L 2		2	
	中等国語科指導法 (授業論)	L 2		4	
	中等国語科指導法 (学習論)		L 2	3	
	(英語)				
	英語学概論		L 2	2	
	英語音声学		L 2	3	
	英文法		L 2	3	
英語学演習		S 2	3		
英語文化圏文学		L 2	3		
アメリカ現代小説研究		S 2	2		
英文学演習		S 2	3		
英語コミュニケーション (会話)		S 2	2		
英語コミュニケーション (ライティング)		S 2	3		
比較文化		L 2	3		
小学校英語教育概論		L 2	2		
異文化理解教育		L 2	3		
教科内容構成「英語」		L 2	2		
中等英語科指導法 (教授法)	L 2		3		
中等英語科指導法 (授業論)	L 2		3		
中等英語科指導法 (学習論)		L 2	4		
社会系コース	考古学認識論		L 2	3	20単位以上を修得すること。
	日本前近代社会史認識論		L 2	3	
	日本近現代社会史認識論		L 2	2	
	地域調査法A		S 2	2	
	歴史・民俗資料演習		S 2	3	
	ユーラシア史認識論		L 2	3	
	ヨーロッパ史認識論		L 2	3	
	地理学実験		P 2	2	
	地域調査法B		S 2	2	
	自然地理学		L 2	3	
	地理情報学		L 2	3	
	地理学野外実験		P 2	2	
	地域環境学		L 2	3	
	国際地誌学		L 2	3	
	法律学文献講読		L 2	3	
	社会認識手法論		L 2	3	
	経済学文献講読		L 2	3	
	社会学文献講読		L 2	3	
	地域調査法C		S 2	2	
	現代社会論		L 2	3	
	倫理学文献講読		L 2	3	
	哲学文献講読		L 2	3	
	宗教学文献講読		L 2	3	
	宗教思想史研究		L 2	2	
	学校社会心理学		L 2	3	
	教科内容構成「社会」		L 2	3	

ピアノ独奏Ⅰ（伴奏法を含む。）	S 2		2
ピアノ独奏Ⅱ		S 2	2
ピアノ独奏Ⅲ		S 2	2
合奏Ⅰ	S 2		3
合奏Ⅱ		S 2	3
日本音楽AⅠ	S 2		2
日本音楽AⅡ		S 2	3
指揮法	S 2		3
作曲基礎	S 2		2
作曲法ⅠA		S 1	2
作曲法ⅠB		S 1	2
作曲法ⅡA		S 1	3
作曲法ⅡB		S 1	3
音楽史Ⅰ	L 2		2
音楽史Ⅱ		L 2	2
音楽劇創作Ⅰ		S 2	3
音楽劇創作Ⅱ		S 2	4
音楽研究入門		S 2	2
民族音楽学		L 2	3
中等音楽科指導法（本質論）		S 2	2
中等音楽科指導法（授業論）		S 2	3
中等音楽科指導法（学習課程論）		S 2	3
中等音楽科指導法（実践応用論）		S 2	4
〈美術〉 教科内容構成「図画工作・美術」	S 1	L 2	3
造形基礎A		S 2	2
伝統絵画表現と鑑賞		S 2	2
油彩画表現		S 2	3
日本画表現		S 2	3
人物画実習		P 1	3
造形基礎B	S 1		2
彫刻表現Ⅰ		S 2	2
彫刻表現Ⅱ		P 2	3
身体表現モデル実習		P 1	3
造形基礎C	S 1		2
造形表示A		S 1	2
造形表示B		S 1	2
デザインワークⅠ		S 2	2
デザインワークⅡ		P 2	3
現代デザイン論		L 2	3
デザイン表現技法		S 2	3
造形基礎D	S 1		2
総合造形表現		S 2	2
工芸表現（木工）		S 2	3
工芸表現（陶芸）		S 2	3
現代工芸論		L 2	2
工芸特講		L 2	3
素材と焼成		S 2	3
美術史論	L 2		2
美術史演習・美術史実地研究		S 2	3
中等美術科指導法（基礎論）	L 2		2
中等美術科指導法（課程論）	L 2		2
中等美術科指導法（教材論）	S 2		3
中等美術科指導法（方法論）	S 2		3
工芸科指導法（基礎論）		L 2	3
工芸科指導法（課程論）		L 2	3
〈保健体育〉 教科内容構成「体育・保健体育」		L 2	3
体操・器械運動	P 1		2
陸上競技	P 1		3

合唱Ⅲ	S 1		4
ピアノ独奏Ⅰ（伴奏法を含む。）	S 2		2
ピアノ独奏Ⅱ		S 2	2
ピアノ独奏Ⅲ		S 2	2
合奏Ⅰ	S 2		3
合奏Ⅱ		S 2	3
日本音楽AⅠ	S 2		2
日本音楽AⅡ		S 2	3
指揮法	S 2		3
作曲基礎	S 2		2
作曲法Ⅰ		S 2	2
作曲法ⅡA		S 1	3
作曲法ⅡB		S 1	3
音楽史Ⅰ	L 2		2
音楽史Ⅱ		L 2	2
生活と音楽		S 2	3
音楽劇創作Ⅰ		S 2	3
音楽劇創作Ⅱ		S 2	4
中等音楽科指導法（本質論）		S 2	2
中等音楽科指導法（授業論）		S 2	3
中等音楽科指導法（学習課程論）		S 2	3
中等音楽科指導法（実践応用論）	S 2		4
音楽研究入門		S 2	2
民族音楽学		L 2	3
教科内容構成「音楽」		L 2	3
〈美術〉 造形基礎A	S 1		2
伝統絵画表現と鑑賞		S 2	2
油彩画表現		S 2	3
日本画表現		S 2	3
人物画実習		P 1	3
造形基礎B	S 1		2
彫刻表現Ⅰ		S 2	2
彫刻表現Ⅱ		P 2	3
身体表現モデル実習		P 1	3
造形基礎C	S 1		2
造形表示A		S 1	2
造形表示B		S 1	2
デザインワークⅠ		S 2	2
デザインワークⅡ		P 2	3
現代デザイン論		L 2	3
造形基礎D	S 1		2
総合造形表現		S 2	2
工芸表現（木工）		S 2	3
工芸表現（陶芸）		S 2	3
現代工芸論		L 2	2
工芸特講		L 2	3
美術史論	L 2		2
美術史演習		S 2	3
美術理論・美術史実地研究		S 2	3
教科内容構成「図画工作・美術」		L 2	3
中等美術科指導法（基礎論）	L 2		2
中等美術科指導法（課程論）	L 2		2
中等美術科指導法（教材論）		S 2	3
中等美術科指導法（方法論）		S 2	3
工芸科指導法（基礎論）		L 2	3
工芸科指導法（課程論）		L 2	3
生活・健康系			
〈保健体育〉 体操・器械運動		P 1	2
陸上競技		P 1	3
専攻する 科目群か ら20単位以			

	家族関係学Ⅱ	L 1		3	
	生活経営学Ⅰ（家庭経済学を含む。）	L 1		2	
	生活経営学Ⅱ	S 1		3	
	被服製作の理論と実習	L1・P1		2	
	被服学	L 2		2	
	衣生活論	L 1		3	
	被服学実験	P 1		3	
	調理の理論と実習	L1・P1		2	
	食物学Ⅰ	L 2		2	
	食物学Ⅱ	L 2		2	
	食物学実験	P 2		3	
	住居学（製図を含む。）	L1・S1		2	
	保育学	L 2		2	
	保育学実習	P 1		2	
	家庭看護学	S 1		2	
	家族研究法		S 2	2	
	家庭電気・機械・情報		S 2	3	
	中等家庭科指導法（課程論）	L1・S1		2	
	中等家庭科指導法（教材論）	L1・S1		2	
	中等家庭科指導法（指導論）	L1・S1		3	
	中等家庭科指導法（授業論）	L1・S1		3	
全コース	〈自由科目〉 社会教育演習Ⅰ 社会教育演習Ⅱ 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 日本語・日本文化研究セミナーA 日本語・日本文化研究セミナーB 多文化比較研究A 多文化比較研究B		S 2	3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 1	
専門セミナー	学校教育実践コース 学校教育実践セミナーⅠ 学校教育実践セミナーⅡ	S 4 S 4		3 4	
先端教科・領域学習コース	小学校英語セミナーⅠ 小学校英語セミナーⅡ プログラミング教育セミナーⅠ プログラミング教育セミナーⅡ 教科横断セミナーⅠ 教科横断セミナーⅡ 学習支援セミナーⅠ 学習支援セミナーⅡ		S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4	3 4 3 4 3 4 3 4	8単位を修得すること。
現代教育課題コース	〈学習臨床・授業研究〉 学習臨床・授業研究セミナーⅠ 学習臨床・授業研究セミナーⅡ 〈発達と教育連携〉 学校心理学セミナーⅠ 学校心理学セミナーⅡ 教育連携セミナーⅠ 教育連携セミナーⅡ 〈道徳・生徒指導〉 道徳・生徒指導総合セミナーⅠ 道徳・生徒指導総合セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4		3 4 4 3 4 3 4 3 4	専攻する領域から8単位を修得すること。

	家族関係Ⅱ		L 1	3	
	生活経営Ⅰ（家庭経済学を含む。）	L 1		2	
	生活経営Ⅱ		L 1	3	
	被服製作の理論と実習	L1・P1		2	
	被服学	L 2		2	
	衣生活論		L 1	3	
	被服学実験A		P 1	3	
	被服学実験B		P 1	3	
	調理の理論と実習	L1・P1		2	
	食生活演習（調理実習を含む。）		S1・P1	2	
	食物学Ⅰ	L 2		2	
	食物学Ⅱ	L 2		2	
	食物学実験		P 2	3	
	住居学（製図を含む。）	L 2		2	
	保育学	L 2		2	
	保育学実習		P 1	2	
	家庭看護学	S 1		2	
	家族研究法		S 2	2	
	家庭電気・機械・情報		S 2	3	
	教科内容構成「家庭」		L 2	3	
	中等家庭科指導法（課程論）		L 2	2	
	中等家庭科指導法（教材論）		L1・S1	2	
	中等家庭科指導法（指導論）		L 2	3	
	中等家庭科指導法（授業論）		L 2	3	
全専修・コース	〈自由科目〉 社会教育演習Ⅰ 社会教育演習Ⅱ 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 日本語・日本文化研究セミナーA 日本語・日本文化研究セミナーB 多文化比較研究A 多文化比較研究B		S 2 S 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 S 2 S 2 S 2 S 2	3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 1	
専門セミナー	学校臨床コース 〈学習臨床〉 学習臨床セミナーⅠ 学習臨床セミナーⅡ 〈生徒指導総合〉 生徒指導総合セミナーⅠ 生徒指導総合セミナーⅡ 〈学校心理〉 学校心理学セミナーⅠ 学校心理学セミナーⅡ 臨床心理学コース 臨床心理学セミナーⅠ 臨床心理学セミナーⅡ 幼児教育コース 子どもの発達理解セミナーⅠ 子どもの発達理解セミナーⅡ 子どもの生活環境セミナーⅠ 子どもの生活環境セミナーⅡ 子どもの表現セミナーⅠ 子どもの表現セミナーⅡ 幼児教育・教育セミナーⅠ 幼児教育・教育セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4		3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4	専攻する科目群から8単位以上を修得すること。

幼年教育 コース	子どもの発達理解セミナー I		S 4	3	8 単位を 修得するこ と。
	子どもの発達理解セミナー II		S 4	4	
	保育内容セミナー I		S 4	3	
	保育内容セミナー II		S 4	4	
	子どもの表現セミナー I		S 4	3	
	子どもの表現セミナー II		S 4	4	
	幼年教育セミナー I		S 4	3	
幼年教育セミナー II		S 4	4		
心理臨床 コース	心理臨床セミナー I	S 4		3	
	心理臨床セミナー II	S 4		4	
教科内容 構成コー ス	〈国語〉 国語基礎セミナー	S 4		3	専攻する 領域から8 単位を修得 すること。
	国語学応用セミナー		S 4	4	
	国文学応用セミナー		S 4	4	
	国語科教育応用セミナー		S 4	4	
	国語科（書写）教育応用セミナー		S 4	4	
	〈英語〉 英語学基礎セミナー	S 4	S 4	3	
	英語学応用セミナー		S 4	4	
	英米文学基礎セミナー		S 4	3	
	英米文学応用セミナー		S 4	4	
	小学校英語教育基礎セミナー		S 4	3	
	小学校英語教育応用セミナー		S 4	4	
	異文化コミュニケーション基礎セ ミナー		S 4	3	
	異文化コミュニケーション応用セ ミナー		S 4	4	
	英語教育基礎セミナー		S 4	3	
	英語教育応用セミナー		S 4	4	
	〈社会〉 日本史専門セミナー I	S 4	S 4	3	
	日本史専門セミナー II		S 4	4	
	世界史専門セミナー I		S 4	3	
	世界史専門セミナー II		S 4	4	
	地理学専門セミナー I		S 4	3	
	地理学専門セミナー II		S 4	4	
	倫理学領域専門セミナー I		S 4	3	
	倫理学領域専門セミナー II		S 4	4	
	宗教学領域専門セミナー I		S 4	3	
	宗教学領域専門セミナー II		S 4	4	
	法学領域専門セミナー I		S 4	3	
	法学領域専門セミナー II		S 4	4	
経済学領域専門セミナー I	S 4		3		
経済学領域専門セミナー II	S 4		4		
社会学領域専門セミナー I	S 4		3		
社会学領域専門セミナー II	S 4		4		
社会科教育専門セミナー I	S 4		3		
社会科教育専門セミナー II	S 4		4		
〈数学〉 代数学セミナー I	S 4	S 4	3		
代数学セミナー II		S 4	4		
幾何学セミナー I		S 4	3		
幾何学セミナー II		S 4	4		
解析学セミナー I		S 4	3		
解析学セミナー II		S 4	4		
数学教育学セミナー I		S 4	3		
数学教育学セミナー II		S 4	4		

教職デ ザイン コー ス	教職デザインセミナー I	S 4		3		
	教職デザインセミナー II	S 4		4		
教 科 ・ 領 域 教 育 専 修	言語 系コ ース	S 4	〈国語〉 国語基礎セミナー	S 4	3	専攻する 科目群から 8単位を修 得するこ と。
	国語学応用セミナー		S 4	4		
	国文学応用セミナー		S 4	4		
	国語科教育応用セミナー		S 4	4		
	国語科（書写）教育応用セミナー		S 4	4		
	〈英語〉 英語学基礎セミナー	S 4	3			
	英米文学基礎セミナー	S 4	3			
	小学校英語教育基礎セミナー	S 4	3			
	異文化コミュニケーション基礎セ ミナー	S 4	3			
	英語科教育基礎セミナー	S 4	3			
	英語学応用セミナー	S 4	4			
	英米文学応用セミナー	S 4	4			
	小学校英語教育応用セミナー	S 4	4			
	異文化コミュニケーション応用セ ミナー	S 4	4			
	英語科教育応用セミナー	S 4	4			
	社会 系コ ース	日本史専門セミナー I	S 4	3	8 単位を 修得するこ と。	
	日本史専門セミナー II	S 4	4			
	世界史専門セミナー I	S 4	3			
	世界史専門セミナー II	S 4	4			
	地理学専門セミナー I	S 4	3			
地理学専門セミナー II	S 4	4				
倫理学領域専門セミナー I	S 4	3				
倫理学領域専門セミナー II	S 4	4				
宗教学領域専門セミナー I	S 4	3				
宗教学領域専門セミナー II	S 4	4				
法学領域専門セミナー I	S 4	3				
法学領域専門セミナー II	S 4	4				
経済学領域専門セミナー I	S 4	3				
経済学領域専門セミナー II	S 4	4				
社会学領域専門セミナー I	S 4	3				
社会学領域専門セミナー II	S 4	4				
社会科教育専門セミナー I	S 4	3				
社会科教育専門セミナー II	S 4	4				
自然 系コ ース	〈数学〉 代数学セミナー I	S 4	3	専攻する 科目群から 8単位を修 得するこ と。		
代数学セミナー II	S 4	4				
幾何学セミナー I	S 4	3				
幾何学セミナー II	S 4	4				
解析学セミナー I	S 4	3				
解析学セミナー II	S 4	4				
数学教育学セミナー I	S 4	3				
数学教育学セミナー II	S 4	4				
〈理科〉 物理学セミナー I	S 4	3				
物理学セミナー II	S 4	4				
化学セミナー I	S 4	3				
化学セミナー II	S 4	4				
生物学セミナー I	S 4	3				
生物学セミナー II	S 4	4				
地学セミナー I	S 4	3				

(理科)				
物理学セミナー I	S 4		3	
物理学セミナー II	S 4		4	
化学セミナー I	S 4		3	
化学セミナー II	S 4		4	
生物学セミナー I	S 4		3	
生物学セミナー II	S 4		4	
地学セミナー I	S 4		3	
地学セミナー II	S 4		4	
理科教育学セミナー I	S 4		3	
理科教育学セミナー II	S 4		4	
(音楽)				
歌唱表現法セミナー I	S 4		3	
歌唱表現法セミナー II	S 4		4	
器楽セミナー I	S 4		3	
器楽セミナー II	S 4		4	
音楽学セミナー I	S 4		3	
音楽学セミナー II	S 4		4	
作曲セミナー I	S 4		3	
作曲セミナー II	S 4		4	
音楽教育セミナー I	S 4		3	
音楽教育セミナー II	S 4		4	
(美術)				
絵画表現セミナー I	S 4		3	
絵画表現セミナー II	S 4		4	
彫刻表現セミナー I	S 4		3	
彫刻表現セミナー II	S 4		4	
デザイン表現セミナー I	S 4		3	
デザイン表現セミナー II	S 4		4	
工芸表現セミナー I	S 4		3	
工芸表現セミナー II	S 4		4	
美術理論・美術史セミナー I	S 4		3	
美術理論・美術史セミナー II	S 4		4	
美術科教育セミナー I	S 4		3	
美術科教育セミナー II	S 4		4	
(保健体育)				
運動学セミナー I	S 4		3	
運動学セミナー II	S 4		4	
体育学セミナー I	S 4		3	
体育学セミナー II	S 4		4	
体育心理学セミナー I	S 4		3	
体育心理学セミナー II	S 4		4	
バイオメカニクスセミナー I	S 4		3	
バイオメカニクスセミナー II	S 4		4	
運動生理学セミナー I	S 4		3	
運動生理学セミナー II	S 4		4	
学校保健セミナー I	S 4		3	
学校保健セミナー II	S 4		4	
保健体育科教育セミナー I	S 4		3	
保健体育科教育セミナー II	S 4		4	
(保健)				
運動生理学セミナー I	S 4		3	
運動生理学セミナー II	S 4		4	
食と健康セミナー I	S 4		3	
食と健康セミナー II	S 4		4	
学校保健セミナー I	S 4		3	
学校保健セミナー II	S 4		4	

	地学セミナー II		S 4		4	
	理科教育学セミナー I		S 4		3	
	理科教育学セミナー II		S 4		4	
	理科野外観察指導セミナー I		S 4		3	
	理科野外観察指導セミナー II		S 4		4	
芸術系コース	(音楽)					専攻する科目群から8単位を修得すること。
	歌唱表現法セミナー I		S 4		3	
	歌唱表現法セミナー II		S 4		4	
	器楽セミナー I		S 4		3	
	器楽セミナー II		S 4		4	
	音楽学セミナー I		S 4		3	
	音楽学セミナー II		S 4		4	
	作曲セミナー I		S 4		3	
	作曲セミナー II		S 4		4	
	音楽教育セミナー I		S 4		3	
	音楽教育セミナー II		S 4		4	
	(美術)					
	絵画表現セミナー I		S 4		3	
	絵画表現セミナー II		S 4		4	
	彫刻表現セミナー I		S 4		3	
	彫刻表現セミナー II		S 4		4	
	デザイン表現セミナー I		S 4		3	
	デザイン表現セミナー II		S 4		4	
	工芸表現セミナー I		S 4		3	
	工芸表現セミナー II		S 4		4	
	美術理論・美術史セミナー I		S 4		3	
	美術理論・美術史セミナー II		S 4		4	
	美術教育セミナー I		S 4		3	
	美術教育セミナー II		S 4		4	
生活・健康系コース	(保健体育)					専攻する科目群から8単位を修得すること。
	運動学セミナー I		S 4		3	
	運動学セミナー II		S 4		4	
	体育学セミナー I		S 4		3	
	体育学セミナー II		S 4		4	
	体育心理学セミナー I		S 4		3	
	体育心理学セミナー II		S 4		4	
	バイオメカニクスセミナー I		S 4		3	
	バイオメカニクスセミナー II		S 4		4	
	運動生理学セミナー I		S 4		3	
	運動生理学セミナー II		S 4		4	
	学校保健セミナー I		S 4		3	
	学校保健セミナー II		S 4		4	
	保健体育科教育セミナー I		S 4		3	
	保健体育科教育セミナー II		S 4		4	
	(保健)					
	運動生理学セミナー I		S 4		3	
	運動生理学セミナー II		S 4		4	
	食と健康セミナー I		S 4		3	
	食と健康セミナー II		S 4		4	
	学校保健セミナー I		S 4		3	
	学校保健セミナー II		S 4		4	
	(技術)					
	金属加工セミナー I		S 4		3	
	金属加工セミナー II		S 4		4	
	メカトロニクスセミナー I		S 4		3	
	メカトロニクスセミナー II		S 4		4	
	基礎電気理論セミナー I		S 4		3	
	基礎電気理論セミナー II		S 4		4	

		(技術) 金属加工セミナーⅠ 金属加工セミナーⅡ メカトロニクスセミナーⅠ メカトロニクスセミナーⅡ 基礎電気理論セミナーⅠ 基礎電気理論セミナーⅡ 情報科学セミナーⅠ 情報科学セミナーⅡ 技術科教育セミナーⅠ 技術科教育セミナーⅡ 技術科教育・木材加工セミナーⅠ 技術科教育・木材加工セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4	3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4		
		(家庭) 家庭経営学セミナーⅠ 家庭経営学セミナーⅡ 被服学セミナーⅠ 被服学セミナーⅡ 食物学セミナーⅠ 食物学セミナーⅡ 保育学セミナーⅠ 保育学セミナーⅡ 家庭科教育学セミナーⅠ 家庭科教育学セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4	3 4 3 4 3 4 3 4 3 4		
実践セミナー	学校教育実践コース	実践セミナー「学校教育実践」	S 2	3		
	先端教科・領域学習コース	実践セミナー「小学校英語」 実践セミナー「プログラミング教育」 実践セミナー「教科横断」 実践セミナー「学習支援」	S 2 S 2 S 2 S 2	3 3 3 3	2単位を修得すること。	
	現代教育課題コース	(学習臨床・授業研究) 実践セミナー「学習臨床・授業研究」 (発達と教育連携) 実践セミナー「発達と教育連携」 (道徳・生徒指導) 実践セミナー「道徳・生徒指導」	S 2 S 2 S 2	3 3 3	専攻する領域から2単位を修得すること。	
	幼年教育コース	実践セミナー「幼年教育」	S 2	3		
	心理臨床コース	実践セミナー「心理臨床」	S 2	3		
	教科内容構成コース	(国語) 実践セミナー「国語」 (英語) 実践セミナー「英語」 (社会) 実践セミナー「社会」 (数学) 実践セミナー「数学」	S 2 S 2 S 2 S 2	3 3 3 3	専攻する領域から2単位を修得すること。	

		情報科学セミナーⅠ 情報科学セミナーⅡ 技術科教育セミナーⅠ 技術科教育セミナーⅡ 技術科教育・木材加工セミナーⅠ 技術科教育・木材加工セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4	3 4 3 4 3 4		
		(家庭) 家庭経営学セミナーⅠ 家庭経営学セミナーⅡ 被服学セミナーⅠ 被服学セミナーⅡ 食物学セミナーⅠ 食物学セミナーⅡ 保育学セミナーⅠ 保育学セミナーⅡ 家庭科教育学セミナーⅠ 家庭科教育学セミナーⅡ	S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4 S 4	3 4 3 4 3 4 3 4 3 4		
実践セミナー	学校教育専修	(学習臨床) 実践セミナー「学習臨床」 (生徒指導総合) 実践セミナー「生徒指導」 (学校心理) 実践セミナー「学校心理」	S 2 S 2 S 2	3 3 3	専攻する科目群から2単位以上を修得すること。	
	臨床心理学コース	実践セミナー「臨床心理学」	S 2	3		
	幼児教育コース	実践セミナー「幼児教育」	S 2	3		
	教職デザインコース	実践セミナー「教職デザイン」	S 2	3		
	教科・領域教育専修	言語系コース (国語) 実践セミナー「国語」 (英語) 実践セミナー「英語」 社会系コース 実践セミナー「社会」 自然系コース (数学) 実践セミナー「数学」 (理科) 実践セミナー「理科」 芸術系コ (音楽) 実践セミナー「音楽」	S 2 S 2 S 2 S 2 S 2	3 3 3 3 3	専攻する科目群から2単位を修得すること。	

		〈理科〉 実践セミナー「理科」	S 2			3
		〈音楽〉 実践セミナー「音楽」	S 2			3
		〈美術〉 実践セミナー「美術」	S 2			3
		〈保健体育〉 実践セミナー「保健体育」	S 2			3
		〈保健〉 実践セミナー「保健」	S 2			3
		〈技術〉 実践セミナー「技術」	S 2			3
		〈家庭〉 実践セミナー「家庭」	S 2			3
卒業研究	全コース	卒業研究	S 4			4

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に学校教育学部に入学者については、この規程による改正後の上越教育大学学校教育学部履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表に規定する授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、卒業要件単位に算入しない。

		コース	〈美術〉 実践セミナー「美術」	S 2			3	2単位を修得すること。
		生活・健康系コース	〈保健体育〉 実践セミナー「保健体育」	S 2			3	専攻する科目群から2単位を修得すること。
	〈保健〉 実践セミナー「保健」		S 2			3		
	〈技術〉 実践セミナー「技術」		S 2			3		
	〈家庭〉 実践セミナー「家庭」		S 2			3		
卒業研究	全専修・コース	卒業研究		S 4			4	

備考 (1) 「ブリッジ科目Ⅱ」で修得した単位は、同一専修・コース又は専攻する分野の専門科目の単位に代えることができる。
(2) 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

【学内規則集 第7章 教務】

(改正理由)

教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）並びに大学改革による上越教育大学教育研究組織規則（平成20年規則第1号）の改正に伴い、学校教育学部の学生に係る教育組織及び履修内容を整備するとともに規定の整備を行う等の所要の改正を行うものである。